2025年度
大学院経済学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2025/5/1］最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X3000】経済学基礎A［廣川　みどり］春学期授業/Spring …… 1
【X3001】経済学基礎B［廣川　みどり］秋学期授業/Fall …… 2
【X3002】実証経済学基礎A［河村　真］春学期授業/Spring …… 3
【X3003】実証経済学基礎B［平瀬　友樹］秋学期授業/Fall …… 4
【X3004】経済史A［進藤　理香子］春学期授業/Spring …… 5
【X3005】経済史B［萬代　悠］秋学期授業/Fall …… 6
【X3006】計量経済学A［明城　聡］春学期授業/Spring …… 7
【X3007】計量経済学B［池上　宗信］秋学期授業/Fall …… 8
【X3008】社会経済学A［大西　広］春学期授業/Spring …… 10
【X3009】社会経済学B［大西　広］秋学期授業/Fall …… 11
【X3010】マクロ経済学A［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring …… 12
【X3011】マクロ経済学B［八木橋　毅司］秋学期授業/Fall …… 13
【X3012】ミクロ経済学A［西村　健］春学期授業/Spring …… 14
【X3013】ミクロ経済学B［小林　克也］秋学期授業/Fall …… 15
【X3014】応用マクロ経済学A［倪　彬］春学期前半/Spring(1st half) …… 16
【X3015】応用マクロ経済学B［高野　哲彰］秋学期授業/Fall …… 17
【X3016】応用ミクロ経済学A［西村　健］春学期授業/Spring …… 18
【X3017】応用ミクロ経済学B［小林　克也］秋学期授業/Fall …… 19
【X3019】開発経済論B［池上　宗信］秋学期授業/Fall …… 20
【X3021】金融ファイナンス論B［胥　鵬］秋学期授業/Fall …… 22
【X3022】金融システム論B［胥　鵬］秋学期授業/Fall …… 23
【X3024】財政学A［小黒　一正］春学期授業/Spring …… 24
【X3025】財政学B［小黒　一正］秋学期授業/Fall …… 25
【X3030】地域経済論ⅡA［馬　欣欣］春学期授業/Spring …… 26
【X3031】地域経済論ⅡB［馬　欣欣］秋学期授業/Fall …… 28
【X3032】統計学A［菅　幹雄］春学期授業/Spring …… 30
【X3033】統計学B［菅　幹雄］秋学期授業/Fall …… 31
【X3038】企業経済学A［砂田　充］秋学期授業/Fall …… 32
【X3042】経済と会計A［田中　優希］春学期前半/Spring(1st half) …… 33
【X3048】環境経済論A［松波　淳也］春学期前半/Spring(1st half) …… 35
【X3049】環境経済論B［松波　淳也］春学期後半/Spring(2nd half) …… 36
【X3054】経済地理学A［近藤　章夫］秋学期授業/Fall …… 37
【X3056】公共経済学A［篠原　隆介］春学期授業/Spring …… 38
【X3057】公共経済学B［篠原　隆介］秋学期授業/Fall …… 39
【X3062】労働経済学A［酒井　正］春学期授業/Spring …… 40
【X3063】労働経済学B［酒井　正］秋学期授業/Fall …… 41
【X3064】国際貿易論A［武智　一貴］春学期授業/Spring …… 42
【X3065】国際貿易論B［武智　一貴］秋学期授業/Fall …… 43
【X3070】応用計量経済学A［明城　聡］秋学期授業/Fall …… 44
【X3071】ミクロ計量分析A［明城　聡］秋学期授業/Fall …… 45
【X3081】日本語ⅠA［清水　由美］春学期授業/Spring …… 46
【X3082】日本語ⅠB［清水　由美］秋学期授業/Fall …… 48
【X3083】日本語ⅡA［清水　由美］春学期授業/Spring …… 50
【X3084】日本語ⅡB［清水　由美］秋学期授業/Fall …… 52

【X3085】日本語ⅢＡ［大場　理恵子］春学期授業/Spring …… 54
【X3086】日本語ⅢＢ［大場　理恵子］秋学期授業/Fall …… 55
【X3501】修士ワークショップＡ［経済学専攻教員］春学期授業/Spring …… 56
【X3502】修士ワークショップＢ［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall …… 57
【X3200】修士論文［経済学専攻教員］年間授業/Yearly …… 58
【X3250】リサーチ・ペーパー［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 59
【X3701】ＱＥ（経済史）［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 60
【X3702】ＱＥ（計量経済学）［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 61
【X3704】ＱＥ（マクロ経済学）［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 62
【X3705】ＱＥ（ミクロ経済学）［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 63
【X3706】ＱＥ（口述試験）［経済学専攻教員］集中・その他/intensive・other courses …… 64
【X3901】経済学演習ＩＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring …… 65
【X3902】経済学演習ＩＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall …… 66
【X3903】経済学演習ⅡＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring …… 67
【X3904】経済学演習ⅡＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall …… 68
【X3101】経済学演習ⅡＡ［池上　宗信］春学期授業/Spring …… 69
【X3102】経済学演習ⅡＢ［池上　宗信］秋学期授業/Fall …… 70
【X3103】経済学演習ⅡＡ［近藤　章夫］春学期授業/Spring …… 71
【X3104】経済学演習ⅡＢ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall …… 72
【X3105】経済学演習ⅡＡ［酒井　正］春学期授業/Spring …… 73
【X3106】経済学演習ⅡＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall …… 74
【X3107】経済学演習ⅡＡ［篠原　隆介］春学期授業/Spring …… 75
【X3108】経済学演習ⅡＢ［篠原　隆介］秋学期授業/Fall …… 76
【X3111】経済学演習ⅡＡ［JESS DIAMO ＮＤ］春学期授業/Spring …… 77
【X3112】経済学演習ⅡＢ［JESS DIAMO ＮＤ］秋学期授業/Fall …… 78
【X3113】経済学演習ⅡＡ［武智　一貴］春学期授業/Spring …… 79
【X3114】経済学演習ⅡＢ［武智　一貴］秋学期授業/Fall …… 80
【X3115】経済学演習ⅡＡ［田村　晶子］春学期授業/Spring …… 81
【X3116】経済学演習ⅡＢ［田村　晶子］秋学期授業/Fall …… 82
【X3117】経済学演習ⅡＡ［倪　彬］春学期授業/Spring …… 83
【X3118】経済学演習ⅡＢ［倪　彬］秋学期授業/Fall …… 84
【X3119】経済学演習ⅡＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring …… 85
【X3120】経済学演習ⅡＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall …… 86
【X3121】経済学演習ⅡＡ［八木橋　毅司］春学期授業/Spring …… 87
【X3122】経済学演習ⅡＢ［八木橋　毅司］秋学期授業/Fall …… 88
【X3123】経済学演習ⅡＡ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring …… 89
【X3124】経済学演習ⅡＢ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall …… 90
【X3315】応用マクロ経済学ＤＡ［倪　彬］春学期前半/Spring(1st half) …… 91
【X3316】応用マクロ経済学ＤＢ［高野　哲彰］秋学期授業/Fall …… 92
【X3317】応用ミクロ経済学ＤＡ［西村　健］春学期授業/Spring …… 93
【X3318】応用ミクロ経済学ＤＢ［小林　克也］秋学期授業/Fall …… 94
【X3319】開発経済論ＤＢ［池上　宗信］秋学期授業/Fall …… 95
【X3320】金融ファイナンス論ＤＢ［胥　鵬］秋学期授業/Fall …… 97
【X3321】財政学ＤＡ［小黒　一正］春学期授業/Spring …… 98
【X3322】財政学ＤＢ［小黒　一正］秋学期授業/Fall …… 99
【X3323】地域経済論ⅡＤＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring …… 100
【X3324】地域経済論ⅡＤＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall …… 102
【X3325】統計学ＤＡ［菅　幹雄］春学期授業/Spring …… 104
【X3326】統計学ＤＢ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall …… 105
【X3327】企業経済学ＤＡ［砂田　充］秋学期授業/Fall …… 106
【X3328】経済と会計ＤＡ［田中　優希］春学期前半/Spring(1st half) …… 107
【X3329】環境経済論ＤＡ［松波　淳也］春学期前半/Spring(1st half) …… 109
【X3330】環境経済論ＤＢ［松波　淳也］春学期後半/Spring(2nd half) …… 110
【X3331】経済地理学ＤＡ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall …… 111
【X3332】公共経済学ＤＡ［篠原　隆介］春学期授業/Spring …… 112
【X3333】公共経済学ＤＢ［篠原　隆介］秋学期授業/Fall …… 113
【X3334】労働経済学ＤＡ［酒井　正］春学期授業/Spring …… 114

【X3335】労働経済学ＤＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 115
【X3336】国際貿易論ＤＡ［武智　一貴］春学期授業/Spring 116
【X3337】国際貿易論ＤＢ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 117
【X3338】応用計量経済学ＤＡ［明城　聡］秋学期授業/Fall 118
【X3909】経済学演習ⅢＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 119
【X3910】経済学演習ⅢＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 120
【X3911】経済学演習ⅣＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 121
【X3912】経済学演習ⅣＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 122
【X3913】経済学演習ＶＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 123
【X3914】経済学演習ＶＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 124
【X3401】経済学演習ⅣＡ［JESS DIAMOＮD］春学期授業/Spring 125
【X3402】経済学演習ⅣＢ［JESS DIAMOＮD］秋学期授業/Fall 126
【X3403】経済学演習ⅣＡ［松波　淳也］春学期授業/Spring 127
【X3404】経済学演習ⅣＢ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 128
【X3405】経済学演習ＶＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 129
【X3406】経済学演習ＶＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 130
【X3407】経済学演習ＶＡ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 131
【X3408】経済学演習ＶＢ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 132
【X3409】論文指導ＶＡ［鈴木　豊］春学期前半/Spring(1st half) 133
【X3410】論文指導ＶＢ［鈴木　豊］秋学期前半/Fall(1st half) 134
【X3411】論文指導ＶＡ［田村　晶子］春学期前半/Spring(1st half) 135
【X3412】論文指導ＶＢ［田村　晶子］秋学期前半/Fall(1st half) 136
【X3413】論文指導ＶＡ［宮﨑　憲治］春学期前半/Spring(1st half) 137
【X3414】論文指導ＶＢ［宮﨑　憲治］秋学期前半/Fall(1st half) 138
【X3415】博士ワークショップⅢＡ［鈴木　豊］春学期後半/Spring(2nd half) 139
【X3416】博士ワークショップⅢＢ［鈴木　豊］秋学期後半/Fall(2nd half) 140
【X3417】博士ワークショップⅢＡ［田村　晶子］春学期後半/Spring(2nd half) 141
【X3418】博士ワークショップⅢＢ［田村　晶子］秋学期後半/Fall(2nd half) 142
【X3419】博士ワークショップⅢＡ［宮﨑　憲治］春学期後半/Spring(2nd half) 143
【X3420】博士ワークショップⅢＢ［宮﨑　憲治］秋学期後半/Fall(2nd half) 144
【X3503】博士ワークショップＡ［経済学専攻教員］春学期授業/Spring 145
【X3504】博士ワークショップＢ［経済学専攻教員］秋学期授業/Fall 146
【X3600】博士論文［経済学専攻教員］年間授業/Yearly 147
【X3915】論文指導ＶＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期前半/Spring(1st half) 148
【X3916】論文指導ＶＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期前半/Fall(1st half) 149
【X3917】博士ワークショップⅢＡ（代表シラバス）［経済学専攻教員］春学期後半/Spring(2nd half) 150
【X3918】博士ワークショップⅢＢ（代表シラバス）［経済学専攻教員］秋学期後半/Fall(2nd half) 151

ECN501C1 － 1（経済学 / Economics 500）

経済学基礎Ａ

廣川　みどり

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ミクロ経済学の基礎的な考え方を学ぶ。具体的には，経済活動の担い手である経済主体（消費者や企業）の行動を学び、それらを結びつける市場の役割・そこへの規制の効果や個々の主体の戦略的行動について考える。

【到達目標】
ミクロ経済学的なものの見方や考え方を身につけ、経済社会に対する洞察・判断ができるようにする。具体的には，需要・供給曲線、その背後の経済主体（消費・生産者）の行動・選択、完全競争下での価格決定とその厚生経済学な観点からの意味、政策の及ぼす効果を理解すること、また、独占・寡占的な状況での経済主体の行動・選択と帰結を見渡し、現実の政策問題について経済学的な考察・提言ができるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交えた形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の考え方
第2回	需要と供給(1)	需要曲線・供給曲線の導入
第3回	需要と供給(2)	限界概念・余剰分析
第4回	市場の効率性(1)	厚生経済学の第１基本定理
第5回	市場の効率性(2)	課税の効果
第6回	中間のまとめ	これまでの総括
第7回	消費者行動(1)	消費者の行動、無差別曲線、最適消費
第8回	消費者行動(2)	所得効果、代替効果
第9回	生産者行動(1)	費用関数
第10回	生産者行動(2)	生産者の選択
第11回	市場の失敗	外部性、公共財
第12回	独占	独占市場における企業の行動
第13回	寡占	寡占市場における企業の行動
第14回	試験とまとめ	期末試験、本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（40%）＋期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
今年度初めて担当となりますが、学生の理解度を見つつ、進めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するため、それが利用可能な環境を用意しておくこと。ただし、各回の授業に持参する必要はない。

【その他の重要事項】
課題解答については、生成AIの利用は不可とする。

【担当教員の専門分野等】
専門領域：社会的選択論，公共経済学
研究テーマ：制度の形成についてのミクロ経済学的基礎
主要研究業績：
・「公共財供給の制度設計 ― 多数決による決定」船木由喜彦・石川竜一郎（編）『制度と認識の経済学』第3章（pp.109-147），NTT出版，2013年.
・「研究ノート：リンダール-比率均衡と社会的厚生」『経済志林』第86巻第3,4号, pp.411-423, 2019年3月.
・「民事再生法における小口債権者のパワー分析」『経済志林』第92巻第3,4号2025年3月掲載予定.（胥鵬との共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course will provide students with the knowledge of microeconomics necessary to understand other graduate coursework.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students will acquire the idea of basic microeconomics, and skills for application.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is four hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be calculated by in-class assignments (40%) and final examinations (60%).

ECN501C1 − 2（経済学 / Economics 500）

経済学基礎Ｂ

廣川　みどり

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、マクロ経済学の基礎的な考え方を学ぶ。具体的には，一国の経済活動の指標となる概念と、それらが決定される仕組みや政府の政策がもたらす効果を考える。

【到達目標】
マクロ経済学的なものの見方や考え方を身につけ、経済社会に対する洞察・判断ができるようにする。具体的には、経済の指標を表す概念や分析の枠組みを理解し、政府によるマクロ経済政策の効果について経済学的な考察・提言ができるようになることをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を交えた形で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	マクロ経済学の考え方
第2回	国民所得の諸概念(1)	名目と実質GDP、三面等価の原則
第3回	国民所得の諸概念(2)	各種マクロ経済指標、ストックとフロー
第4回	国民所得の決定(1)	45度線分析
第5回	国民所得の決定(2)	財政政策・乗数効果
第6回	貨幣市場の導入	貨幣の役割、信用創造、金利、債権
第7回	IS-LM分析(1)	IS曲線
第8回	IS-LM分析(2)	LM曲線
第9回	IS-LM分析(3)	利子率と所得の同時決定、財政・金融政策の効果
第10回	中間のまとめ	これまでの総括
第11回	AD-AS分析(1)	AD曲線
第12回	AD-AS分析(2)	AS曲線
第13回	AD-AS分析(3)	総需要と総供給の同時決定、政策の効果
第14回	試験とまとめ	期末試験、本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題（40%）＋期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】
今年度初めて担当となりますが、学生の理解度を見つつ、進めます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用するため、それが利用可能な環境を用意しておくこと。ただし、各回の授業に持参する必要はない。

【その他の重要事項】
課題解答については、生成AIの利用は不可とする。

【担当教員の専門分野等】
専門領域：社会的選択論，公共経済学
研究テーマ：制度の形成についてのミクロ経済学的基礎
主要研究業績：
・「公共財供給の制度設計 ― 多数決による決定」船木由喜彦・石川竜一郎（編）『制度と認識の経済学』第3章（pp.109-147），NTT出版，2013年.
・「研究ノート：リンダール-比率均衡と社会的厚生」『経済志林』第86巻第3,4号, pp.411-423, 2019年3月.
・「民事再生法における小口債権者のパワー分析」『経済志林』第92巻第3,4号2025年3月掲載予定.（胥鵬との共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）
This course will provide students with the knowledge of macroeconomics necessary to understand other graduate coursework.
（Learning Objectives）
At the end of the course, students will acquire the idea of basic macroeconomics, and skills for application.
（Learning activities outside of classroom）
The standard preparation and review time for this class is four hours each.
（Grading Criteria /Policy）
Final grade will be calculated by in-class assignments (40%) and final examinations (60%).

ECN504C1 － 1（経済学 / Economics 500）

実証経済学基礎 A

河村　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学「生産者の理論」の中の要素需要に関する説明を理解する。あわせて、要素需要の説明から導かれる費用関数の理論的説明も理解する。さらに、費用関数を、現実のデータおよび統計学のソフトを用い、最小二乗法など計量経済学モデルの推定を行い、推定結果の評価を行う。

【到達目標】
導入科目として、ミクロ経済学の「生産者の理論」の生産要素需要の説明およびその延長線上にある費用関数に関する説明を復習し、理解する。さらに、費用関数の推定および規模の経済性の計測を実習を通じて行い、最小二乗推定量の基本的な理解とパネルデータを用いる際の推定結果の基本的な診断および改善に関する手続きを各自で行えるようにすること。併せて、費用関数の推定、仮説検定に用いる統計学ソフト stata の基本的なコマンドを使えるようになることおよび計測結果の出力を各自で行えるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、6回までは、オンライン授業で行う。この間の講義では、完全競争モデルの生産要素需要体系の説明とそれより派生する費用関数に関してのミクロ経済学の図解を用いた復習である。そのため、板書（電子ノート）を用いた説明となる。この間の質疑応答は、オンラインを通じて授業時間内に行います。第 7 回以降は主に実習授業である。そのため、対面で行います。ハイフレックスで行いますが、実習授業なので、なるべく対面で行いたい。
授業の内容の進め方について説明する。まず、ミクロ経済学の「生産者の理論」における生産要素需要の決定と費用関数の導出を解説する（主にミクロ経済学の復習）。公益事業のデータを用いて、ミクロ経済学の理論で提示されている費用関数と整合的な費用関数の推定を統計ソフト stata を計用いて体験してもらう。それに基づき、規模の経済性の計測値を求め、その計測値のミクロ経済学的な解釈を説明する。講義の目的は、簡単なミクロ経済学の理論を用いても、計量経済学による計測結果を政策的な課題の判断材料として提示できることを体感してもらうことにある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明と注意
第2回	費用関数および生産関数の計測を通じた応用軽量経済学の研究成果	規模・範囲の経済性の計測、代替弾力性の計測の過去のサーベイ
第3回	利潤最大化行動と生産要素需要関数	ミクロ経済学の「生産者の理論の復習」：利潤最大化行動に基づく生産要素需要の決定の解説
第4回	要素需要と要素価格フロンテイア	要素需要の決定と要素価格フロンテイアとの対応
第5回	費用関数の性質	要素需要関数と整合的な費用関数の性質
第6回	生産関数と双対な費用関数の性質と関数の特定化	生産関数と双対な費用関数の導出、費用関数の特定化に関する解説
第7回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説)
第8回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅰ）	最小二乗推定量の基礎の復習（標準誤差、F-検定、t-検定の解説)
第9回	費用関数の推定に用いる計量経済学（Ⅱ）	最小二乗推定量に基づく推定結果の改善（系列相関、分散不均一などの簡単な解説)
第10回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第11回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅰ）	計量経済学のソフト stata を用いた費用関数の推定および推定結果の問題点の検出
第12回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第13回	費用関数の推定・規模の経済性の計測の実習（Ⅱ）	fixed effects model および random effects model の推定さらに、規模の経済性の推定値の統計学的解釈
第14回	レポート作成指導	レポート作成の質問等に答える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めない。受講生より要請があれば、参考文献等含めて知らせる。

【参考書】
奥野正寛、鈴村興太郎『ミクロ経済学Ⅰ』（モダンエコノミックスシリーズ）岩波書店　計量経済学入門の教科書やそれ以外等は、講義中に示す。

【成績評価の方法と基準】
実習での費用関数に関わる推定及び検定の stata プログラミング作業に関する評価に40％及び期末レポートの評価に60％のウェイトを付け、評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
貸出ノートパソコン（stata インストール済み）、および、授業支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 応用計量経済学
＜研究テーマ＞規制産業の規模の経済性、全要素生産性の計測
＜主要研究業績＞"Estimates of Optimal Public Capital Stocks in Japan Using a Public Investment Discount Rate Framework", Empirical Economics 24, 1999.（根本二郎氏、釜田公良氏と共著）「大都市公営バス事業の密度の経済とサイズの経済の計測」『季刊理論経済学』44巻3号,pp,269-274,1993

【Outline (in English)】
This course introduces factor demand theory in microeconomics, cost function and elasticity substitution, estimating cost function by OLS, using STATA, and evaluating the extent of scale economy.
The goal of this course for students to acquire the basic understandings for factor demand theory, theoretical properties of cost function as summarizing factor demand system. Other goals of this course are to estimate cost function by econometric model(eg. OLS, fixed effects model, etc.) model using STATA programs, and evaluate the extent of scale economy.
Before/after class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.
Your overall grade will be decided based on the following
Mid-term report(for factor demand theory, and cost function theoretical properties):30%, Term-end report(for estimating results of cost function by STATA, evaluating results of the extent of scale economy, and statistical test result for scale economy):50%, and the quality of STATA programing performance in the class: 20%.

ECN504C1 − 2（経済学 / Economics 500）

実証経済学基礎 B

平瀬　友樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計、確率および回帰分析の基礎および応用について学ぶ。
Rを用いた演習によって理解をさらに深める。

【到達目標】
各自の研究分野で実証分析手法にもとづく論文を読む際に、その内容が理解できるようになることを目標とする。さらに、そうした実証分析手法を考慮しながら、各自が論文を執筆できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業の予定である。各受講生は必ずPCを持参すること。ただし、原則Windows機とする。（大学の貸出PCでよい。）
授業の前半に講義をおこない、後半はそれにもとづいた演習をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	何を学ぶか
第2回	Rの基礎	Rの使い方
第3回	回帰分析	回帰分析とは何か
第4回	統計の基礎	母集団と確率的統計論について
第5回	確率論①	確率変数と期待値について
第6回	確率論②	中心極限定理と大数の法則について
第7回	確率論③	経済物理学的アプローチおよびPythonの紹介
第8回	回帰分析①	最小二乗法について
第9回	回帰分析②	決定係数について
第10回	回帰分析③	仮説検定について
第11回	回帰分析④	重回帰分析について
第12回	回帰分析⑤	因果推論について
第13回	回帰分析⑥	時系列分析について
第14回	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
星野匡郎、田中久稔、北川梨津(2023)『Rによる実証分析（第２版）回帰分析から因果分析へ』オーム社

【参考書】
西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
期末試験80%、平常点20%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経済理論形成史
＜研究テーマ＞
数理モデル分析の成立過程についての学際的な研究

【Outline (in English)】
< Course outline >
We will study introductory statistics first. Then, we will learn econometrics methods through problem sets with statistical package R.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for a research paper idea keeping the empirical methods in our minds. We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
< Grading Criteria/Policies >
- We will make class grade based on the following factors and weights: end-term exam 80%; participation 20%.

ECN512C1 − 1（経済学 / Economics 500）

経済史 A

進藤　理香子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二次世界大戦の終結からソ連・社会主義圏の崩壊に至る、東西冷戦下の国際政治と世界経済の動向を、通例の米ソ二大国支配の視点に固執することなく、鉄のカーテンを超えるローカルとグローバルの双方の視点から再検討し学ぶことを目的とする。

【到達目標】
・第二次世界大戦後の世界を東西に二分した米ソ大国のパワーバランスの枠組みを理解する。
・米ソに従属させられた諸地域・諸国の政治・経済・社会的実情を調べ、地域住民の視点からみて、東西陣営の分断が本当に整合的であったのかどうかを考える。
・東西陣営の狭間で揺れ動いた地域、あるいは二極化の外に置かれた諸地域についてその意義を考える。
・東西冷戦終結後に加速した世界のグローバル化の流れに対し、ローカルの視点から国際的再編の問題を考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による解説、文献講読、学生による報告と討論の形式をとる。必要に応じてリアクションペーパーなどでフィードバックの場を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	春学期の導入	授業方針の説明
第2回	冷戦の起源	20世紀前半の国際政治と世界経済の動向から米ソ覇権形成の前提条件を整理する。
第3回	東西陣営の形成	1945年終戦後の東西陣営形成について、米ソ二大国の政策から見る。
第4回	東西ドイツ問題	連合国占領下から分断された東西ドイツについてみる。
第5回	分断されたヨーロッパ（1）	西側陣営となった欧州諸国についてみる。
第6回	分断されたヨーロッパ（2）	東側陣営となった欧州諸国についてみる。
第7回	日本の動向	米ソの狭間で揺れ動く日本社会という視点から戦後日本の立場を見直す。
第8回	アジアの動向（1）	中華人民共和国、台湾、朝鮮半島問題から東西冷戦について考える。
第9回	アジアの動向（2）	インドシナ半島、ヴェトナム戦争から東西冷戦について考える。
第10回	ラテンアメリカの動向	キューバをはじめとする中南米諸国の利害と東西陣営間の対立を考える。
第11回	中近東の動向	東西冷戦下のアラブ諸国の立ち位置を考える。
第12回	アフリカの動向	アフリカ諸国側の方向性と米ソ大国の利害について考える。
第13回	地域の視点とグローバル化	鉄のカーテンによる分断は地域的な住民レベルの利害と整合性をもっていたのかどうか考える。
第14回	春学期のまとめ	今学期の授業をふりかえり、到達点と反省点などをまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定教科書なし。参考文献を必要に応じて指示する。

【参考書】
青野利彦『冷戦史（上）：第二次世界大戦終結からキューバ危機まで』中央公論新社、2023年。
青野利彦『冷戦史（下）：ベトナム戦争からソ連崩壊まで』中央公論新社、2023年。
トニー・ジャット『ヨーロッパ戦後史：上巻 1945 − 1971；下巻 1971 − 2005』みすず書房 2008年

【成績評価の方法と基準】
授業内でのプレゼンテーション（50％）および学期末レポート（50％）の総合点で判定する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
インターネット接続環境とコンピュータ。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
学術研究データベースを参照。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/102/0010191/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this lecture is to examine international politics and world economic developments during the Cold War, from the end of the Second World War to the collapse of the Soviet Union and the socialist bloc, from both local and global perspectives beyond the Iron Curtain, rather than sticking to the usual two-power view of US-Soviet domination.
（Learning Objectives）
The aim of this course is to understand the various regional interests that do not necessarily coincide with the strategies of the two great powers, the United States and the Soviet Union.
（Learning activities outside of classroom）
Lecture/Exercise（two-credits）. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）
Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (50%) and a term-end report (50%).

ECN512C1 − 2（経済学 / Economics 500）

経済史Ｂ

萬代　悠

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いま私たちが直面する経済の仕組みと問題をよりよく理解するためには、経済の成長が常識になる前の時代の、成長を生み出してきた条件を学ぶ必要がある。少なくとも条件のひとつは、私たちの先祖が市場と格闘しながら創り出してきた制度にある。ただし、そうした試行錯誤の歴史は、産業や部門ごとに異なる。本授業では、前近代から戦前の日本を中心に据えながら、国際比較も通して、制度や組織、社会構造の変化を産業・部門別に解説する。

【到達目標】
本授業を通じて、歴史は「用語」を暗記するものという理解から離れ、それぞれの歴史の事象が「なぜ」生じたのかという疑問を持ち、その因果関係を把握する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
偶数回は講義方式、初回を除く奇数回は受講生からの質問やコメントをふまえた解説・応答授業方式でおこなう。偶数回のあと72時間以内に課題に応じた質問やコメントを提出し、それへの解説・応答授業である奇数回の授業中には理解度テストをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	経済史を学ぶ意義を解説する。
第2回	物価史：GDP推計と経済成長	日本を中心として、総生産、人口、1人当たり所得を超長期的に推計した研究を紹介し、そこから描写される歴史像を説明する。
第3回	応答・解説授業	第2回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第4回	社会史：村共同体	前近代の日本を中心として、村の取引統治や相互扶助を解明してきた研究を紹介し、村共同体が市場経済に与えた影響を説明する。
第5回	応答・解説授業	第4回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第6回	家族史：「家」制度	前近代の日本を中心として、「家」の機能と慣行を解明してきた研究を紹介し、「家」制度が市場経済に与えた影響を説明する。
第7回	応答・解説授業	第6回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第8回	法制史：私的秩序と公的秩序	前近代の日本を中心として、法の制定と運用を解明してきた研究を紹介し、法制度が市場経済に与えた影響を説明する。
第9回	応答・解説授業	第8回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第10回	金融史：為替と信用	前近代の日本を中心として、為替金融の歴史を解明してきた研究を紹介し、為替の発展が市場経済に与えた影響を説明する。
第11回	応答・解説授業	第10回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第12回	経営史：商法と組織	前近代の日本を中心として、三井の経営を解明してきた研究を紹介し、大規模同族経営の発展を支えた要因を説明する。
第13回	応答・解説授業	第12回授業の質問やコメントをふまえて解説・応答し、意見交換をする。
第14回	まとめ	授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前には、参考書を用いて予習する（作業2時間程度）。授業のあとには、授業の内容を復習したり、授業で提示した参考文献から理解を深める（作業2時間程度）。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
小野塚知二（2018）『経済史：いまを知り、未来を生きるために』有斐閣。
岡崎哲二（2016）『コアテキスト経済史　増補版』新生社。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第1巻　中世　11世紀から16世紀後半』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第2巻　近世　16世紀末から19世紀前半』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第3巻　近代1　19世紀後半から第一次世界大戦前（1913）』岩波書店。
深尾京司・中村尚史・中林真幸編（2017）『岩波講座日本経済の歴史　第4巻　近代2　第一次世界大戦期から日中戦争前（1914-1936）』岩波書店。
横山和輝（2024）『インセンティブの経済学：殖産興業から学ぶ経済学入門』新世社。

【成績評価の方法と基準】
偶数回の授業のあとに提出する質問・コメント（30％）
初回を除く奇数回の授業でおこなう理解度テスト（20％）
最終試験（50％）

【学生の意見等からの気づき】
レジュメのレイアウトや授業の進行速度の改善。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
原則、対面形式でおこなうが、仮に受講生が教室収容人数を超えた場合には、ハイブリッド形式でおこなうことを検討する。

【Outline (in English)】
授業の概要（Course outline）
This course introduces changes in Japanese institutions, organizations, and social structure from the early modern period to the postwar period to students taking this course.
到達目標（Learning Objectives）
The goals of this course are to develop the ability to question "why" each historical event occurred and to grasp its cause-and-effect relationship.
授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）
Before class, students should prepare for the class using reference books (about 2 hours of work). After class, review the class content and deepen understanding from the references presented in class (about 2 hours of work).
成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30%, Mid-term examination :20%, Term-end examination: 50%.

ECN515C1 − 1（経済学 / Economics 500）

計量経済学Ａ

明城　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得

【到達目標】
統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「応用計量経済学」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業内容の紹介 ・成績評価
第2回	統計学の復習(1)	・確率の概念 ・確率変数と離散型確率分布
第3回	統計学の復習(2)	・期待値オペレータ ・結合確率分布
第4回	統計学の復習(3)	・連続型確率変数 ・母集団、標本、母数 ・標本抽出
第5回	統計学の復習(4)	・標本平均の統計的性質 ・推定と推定量の性質
第6回	計量経済学の基礎(1)	・計量経済学とは ・最小二乗法(1)：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第7回	計量経済学の基礎(2)	・最小二乗法(2)：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第8回	計量経済学の基礎(3)	・単純回帰分析(1)：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第9回	計量経済学の基礎(4)	・単純回帰分析(2)：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択とt検定
第10回	計量経済学の基礎(5)	・重回帰分析(1)：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第11回	計量経済学の基礎(6)	・重回帰分析(2)：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第12回	計量経済学の基礎(7)	・モデルの関数形と特殊な変数
第13回	計量経済学の基礎(8)	・F検定と構造変化の検定
第14回	計量経済学の基礎(9)	・標準的仮定の意味と不均一分散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
・J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 4th eds., Pearson
・浅野晢・中村二郎「計量経済学」第2版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
・期末試験(100%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data analysis.
Students also learn the potential problems of applying the classical linear regression models based on the standard assumptions to the observed economic data.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term exam 100%

ECN515C1 − 2（経済学 / Economics 500）

計量経済学Ｂ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学Aでは、回帰分析およびその基礎となる統計学を学んだ。
計量経済学Bでは、回帰分析の続きとして、ミクロ計量経済学の理論・手法を学ぶ。
重回帰分析だけでは欠落変数バイアスを除去しきれない場合、相関ではなく因果を調べる場合を考察する。
それらの場合のための手法として、固定効果、操作変数法、差の差の分析、Regression Discontinuity Designを学ぶ。
被説明変数が連続変数ではなく2値変数の場合の回帰分析の手法も学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、教科書のうち、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	単回帰	一致性、外生性、内生性、不均一分散、クラスターに対して頑健な標準誤差
第2回	重回帰1	欠落変数バイアス
第3回	重回帰2、操作変数法1	変数選択、関連性、外生性、モーメント法
第4回	操作変数法2	2段階最小2乗推定量
第5回	操作変数法3	過剰識別、結合仮説の検定、操作変数の強さ、外生性の検定、説明変数の内生性の検定
第6回	固定効果1	多重共線性、パネル・データ、プールした回帰、最小2乗ダミー変数推定量
第7回	まとめと復習、 中間試験	第1回から第6回までの内容を復習、中間試験
第8回	固定効果2	2方向固定効果
第9回	固定効果3、ルービンの因果モデル1	1階差分、固定効果操作変数法、平均トリートメント効果、セレクション・バイアス、ランダム化比較試験
第10回	ルービンの因果モデル2、Regression Discontinuity Design	条件付き独立性、条件付き平均トリートメント効果、重なりの仮定、傾向スコア
第11回	差の差の分析1	並行トレンドの仮定、条件付き並行トレンドの仮定
第12回	差の差の分析2	イベント・スタディ、時間差介入
第13回	制限従属変数	最尤法、線形確率モデル、プロビット・モデル、潜在変数、限界効果、ロジット・モデル、操作変数、固定効果
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣
星野匡郎、田中久稔、北川梨津（2023）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ 第2版』オーム社
Hansen, B. (2022) Econometrics, Princeton University Press
Stock, J. H. and Watson, M. M. (2020) Introduction to Econometrics, 4th edition, Pearson
Wooldridge, J. (2020) Introductory Econometrics: A Modern Approach, 7th edition, Cengage

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、期末試験40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当教員が本講義を担当するのは、昨年度が初めて、今年度が2度目である。
昨年度の受講生12名のうち、5名が授業改善アンケートに回答してくれた。その回答に基づいて、今年度の講義の内容、進め方は基本的に昨年度と同じとする。
統計分析ソフトRなどを用いてデータを実際に分析することは、本講義の範囲外である。 その部分を補完するために、実証経済学基礎B、応用計量経済学A、開発経済論Bなどを同時に履修することを検討してほしい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We studied Statistics and regression analysis in Econometrics A.
We will study Micro-Econometrics as the 2nd part of regression analysis.
When we cannot remove omitted variable bias with a basic multiple regression, we can use panel data and fixed effect estimation.
When we pursue causality rather than correlation, we can use instrument variable method, difference-in-difference analysis, and regression discontinuity design.
We will study regression analysis when the dependent variable is a binary rather than a continuous variable.
< Learning Objectives >

We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles. We will try to become able to look for a research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN511C1 － 1（経済学 / Economics 500）

社会経済学Ａ

大西　広

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今期は主に史的唯物論とマルクス経済学との関係に関する学習を行うとともに、数理マルクス考え方とモデル化の方法を学び習得する。これによってこの分野の学術論文がかけるようになることをめざす。

【到達目標】
史的唯物論の基本的な考え方が他の経済学とどう根本的に異なっているかについて、およびその数理化の方法について学び、自分でもそれができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
出席者がマルクス経済学との関係で関心をもっている内容を報告してもらい、それに教員の側がコメントをするなどの討議を中心とする。通常の表現をすれば、研究発表中心の授業運営となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	担当教員の研究上の基本的立場を説明	担当教員の研究上の基本的立場を説明
第2回	マルクス分業論について	マルクス分業論の数理化
第3回	マルクス主義的な垂直分業論について	マルクス主義的な垂直分業論の数理化
第4回	官僚制のモデル	官僚制の数理モデル化
第5回	縮小再生産の再生産表式	縮小再生産の再生産表式
第6回	マルクスの基本定理	マルクスの基本定理の趣旨説明
第7回	マルクス派最適成長論	マルクス派最適成長論の基本理論
第8回	コブ・ダグラス型生産関数について	コブ・ダグラス型生産関数をマルクス派が利用する意義
第9回	社会計画者モデルについて	社会計画者モデルをマルクス派が利用する意義
第10回	マルクスの人間観	数理化の前提としてのマルクスの人間観を学ぶ
第11回	労働価値説	労働価値説の数理的証明
第12回	土台・上部構造論	土台の上部構造論への規定性を学ぶ
第13回	土台・上部構造論の数理化	土台の上部構造論への規定性を数理的に表現する
第14回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大西広『マルクス経済学(第3版)』慶應義塾大学出版会、2020年

【参考書】
大西広『バブルと資本主義が日本を潰す』ちくま新書、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点。
具体的にはクラスの中での個人報告の内容を60%、他の参加者の報告・討論での貢献を40%の比率で評価して成績とする。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ形式で常に自由に発言できる雰囲気を保つので、いつでも意見を言えるようにする。改善要求は基本的に必ず反映する。

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
特にない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞数理マルクス経済学
＜研究テーマ＞マルクス体系の数理化とそれによる発展
＜主要研究業績＞
大西広『マルクス経済学(第3版)』慶應義塾大学出版会、2020年

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞マルクス派数理政治経済学
＜研究テーマ＞マルクス派政治経済学の数理化とそれによる発展
＜主要研究業績＞
大西広『マルクス数理政治経済学』慶應義塾大学出版会、2022年

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞マルクス経済学の人口論
＜研究テーマ＞マルクス派人口論の整理とその民族主義的展開
＜主要研究業績＞
大西広『「人口ゼロ」の資本論』講談社+α新書、2023年

【Outline (in English)】
Course outline）This course mainly introduces basic relations between the historical materialism and Marxian economics including Marxian Formal Economics. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
（Learning Objectives）At the and of the course, students are expected to be able to write a build an economic paper or build a economic model on their own viewpoints.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts or preparing for presentations.
（Grading Criteria /Policy)
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: class presentations: 60%, in class contribution: 40%

ECN511C1 － 2（経済学 / Economics 500）

社会経済学Ｂ

大西　広

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「資本論」の基本的内容を学習し、その中でマルクス経済学を数理モデル化するための力をつける。これによってこの分野の学術論文がかけるようになることをめざす。

【到達目標】
「資本論」の基本的内容を理解した上で、それが他の経済学とどう根本的に異なっているかについて、およびその数理化の方法について学び、自分でもそれができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
出席者がマルクス経済学との関係で関心を持っている内容を報告してもらい、それに教員の側がコメントをするなどの討議を中心とする。通常の表現をすれば、研究発表中心の授業運営となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	担当教員の研究上の基本的立場を説明	担当教員の研究上の基本的立場を説明
第2回	非製造業部門での資本主義化	非製造強部門での資本主義化の具体的内容について
第3回	マルクス派最適成長モデルの再生産表式的表現	マルクス派最適成長モデルの再生産表式的表現について
第4回	利潤率の長期的低下法則	利潤率の長期的低下法則の証明
第5回	レーニンの第一部門の優先的発展法則について	レーニンの第一部門の優先的発展法則が成り立たないことの証明
第6回	ベーム・バベルクの「時差説」	ベーム・バベルクの「時差説」がマルクス搾取理論の批判とならないこと
第7回	トマ・ピケティの格差拡大説について	トマ・ピケティの時差説のマルクス理論的説明
第8回	原始的蓄積について	原始的蓄積過程の数理的表現
第9回	ポスト資本主義の企業形態について	ポスト資本主義の企業形態についての各種論争を紹介する
第10回	価値の価格への転化	転化問題をめぐる論争の紹介
第11回	商業利潤と利子と地代	商業利潤と利子と地代の数理的表現
第12回	農業革命の位置づけについて	農業革命のマルクス派最適成長論的説明
第13回	前資本主義的生産様式について	前資本主義的生産様式の数理的表現について
第14回	授業のまとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大西広『マルクス経済学(第三版)』慶應義塾大学出版会、2020年

【参考書】
大西広『バブルと資本主義が日本を潰す』ちくま新書、2024年

【成績評価の方法と基準】
平常点。
具体的にはクラスの中での個人報告の内容を60%、他の参加者の報告・討論での貢献を40%の比率で評価して成績とする。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ形式で常に自由に発言できる雰囲気を保つので、いつでも意見を言えるようにする。改善要求は基本的に必ず反映する。

【学生が準備すべき機器他】
特にない

【その他の重要事項】
特にない

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞数理マルクス経済学
＜研究テーマ＞マルクス体系の数理かとそれによる発展
＜主要研究業績＞大西広『マルクス経済学(第三版)』慶應義塾大学出版会、2020年

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞マルクス派数理政治経済学
＜研究テーマ＞マルクス派政治経済学の数理化とそれによる発展
＜主要研究業績＞
大西広『マルクス数理政治経済学』慶應義塾大学出版会、2022年

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞マルクス経済学の人口論
＜研究テーマ＞マルクス派人口論の整理とその民族主義的展開
＜主要研究業績＞
大西広『「人口ゼロ」の資本論』講談社+α新書、2023年

【Outline (in English)】
(Course outline) This course is designed to study the basic contents of Marx's Das Kapital and to develop skills in mathematical modeling of Marxian economics in the context of this theory. This course aims to enable students to write academic papers in this field.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts or preparing for presentations.
(Grading Criteria /Policy)
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: class presentations: 60%, in class contribution: 40%.

ECN514C1 − 1（経済学 / Economics 500）

マクロ経済学 A

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
動学を中心にしたマクロ経済学の基本手法を、大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。

【到達目標】
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。さらに、動学モデルをもちいて、経済成長、研究開発活動による知識創造、世界各国の所得格差などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカの大学院でも修士1年生が勉強している標準的なテキストであるRomer（2018）の前半部分（1〜4章）に沿って講義します。数式によるモデルの分析とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。また、学生の理解を助けるために、毎回の授業後に簡単な練習問題を課し、次回の授業で解法の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ソロー成長モデルの基礎	基本的な経済成長モデルの分析手法
第2回	ソロー成長モデルの応用	ソローモデルを使った分析
第3回	ソロー成長モデルの実証分析	ソローモデルの実証分析の紹介
第4回	無限期間モデル（ラムゼイ・モデル）	家計と企業の行動を組み入れたラムゼイ・モデルの解説
第5回	無限期間モデルによる分析	ラムゼイ・モデルを使った分析
第6回	無限期間モデルによる応用と実証分析	ラムゼイ・モデルの応用分析と実証分析の紹介
第7回	中間試験	前半授業の理解の確認
第8回	内生的成長モデル：基本モデル	基本的な内生的成長モデルの解説
第9回	内生的成長モデル：R&D活動とは	知識の性質とR&D活動
第10回	内生的成長モデル：ローマー・モデル	ローマー・モデルの解説
第11回	内生的成長モデル：実証分析	内生的成長モデルの実証的な証拠
第12回	国家間所得格差	国家間所得格差の紹介
第13回	重複世代モデル	重複世代モデルの解説
第14回	期末試験	後半授業の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読んでから講義に向かい、授業後に復習すると効果的です。毎回簡単な練習問題を出すので、講義の後に解いて理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, “Advanced Macroeconomics, 5th edition”, McGraw-Hill　Irwin, 2018
（第3版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第3版』日本評論社、2010年）講義は第5版に沿って行いますが、第3版の翻訳本でもほぼカバーできます。

【参考書】
テキストで紹介される論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加による平常点（20％）＋中間試験（40％）＋期末試験（40％）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が盛りだくさんになると内容が良く理解できない学生がいるため、内容を絞って、余裕を持って講義を行う。また、毎回簡単な練習問題を課し、授業の冒頭で解説を行うことで理解を確認しながら進む。

【担当教員の専門分野等】
マクロ経済学・計量経済学

【Outline (in English)】
· Students learn the basic methods of advanced macroeconomics focuses on dynamics using international standard textbooks in graduate school.
· At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model. In addition, students will understand economic growth and income disparities around the world using the dynamic model.
· Students will be expected to read the textbook, and review after class.　In addition, students will be expected to solve the simple exercise questions after the lecture to deepen their understanding.　The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
· Final grade will be calculated according to: midterm exam (40%), Final exam (40%), and in-class contribution (20%)

ECN514C1 － 2（経済学 / Economics 500）

マクロ経済学Ｂ

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではマクロ経済学の中級講座で学んだ知見を足がかりに、上級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】
・短期と長期における経済問題の性質の違いについて論理的に説明できる
・動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。
・修論執筆の際に有用なマクロ経済モデルの基礎を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期に開講しますが、秋学期の「マクロ経済学Ａ」の知識は前提としません。講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。
各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書や配布資料の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内課題を通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。
講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第１回の講義前後にアナウンスします。
また授業形態につきましては対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。（ただし試験日は対面のみ可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス	オリエンテーション
第2回	消費１	ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、ランダムウォーク仮説
第3回	消費１	トピック講義
第4回	消費２	オイラー方程式、リスク資産
第5回	消費２	トピック講義
第6回	リアル・ビジネス・サイクルモデル１	景気循環の基礎知識、ベルマン方程式
第7回	リアル・ビジネス・サイクルモデル１	トピック講義
第8回	リアル・ビジネス・サイクルモデル２	生産・労働の導入
第9回	クラス内課題	クラス内課題
第10回	リアル・ビジネス・サイクルモデル２	トピック講義
第11回	リアル・ビジネス・サイクルモデル３	RBCモデルの含意
第12回	リアル・ビジネス・サイクルモデル４	RBCモデルの評価
第13回	リアル・ビジネス・サイクルモデル３・４	トピック講義
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】
D. ローマー（著）『上級マクロ経済学（原著第３版）』日本評論社、2010年、6600円+税
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年、2800円+税
G.マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2024年、3800円+税

【成績評価の方法と基準】
期末試験30％、クラス内課題30％、宿題25%、クラス参加15%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】
『授業支援システム』で連絡したことは，全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/
【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
Students learn the basic methods of advanced-level macroeconomics. We use calculus as the tool for generating predictions about aggregate output, prices, and market interest rates. At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.
【Learning Activities Outside of Classroom】
Four hours preview/four hours review per class
【Grading Criteria/Policy】
Final Exam: 30%, In-class Assignment: 30%、Homeworks: 25%、Class Participation: 15%

ECN513C1 − 1（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済学Ａ

西村　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では大学院修士レベルのゲーム理論について学ぶ。ゲーム理論とは、戦略的状況を数理的に分析するための理論体系である。この講義では、ゲーム理論の基礎的な概念および分析手法を学ぶとともに、応用問題についても数多く扱う。

【到達目標】
・ゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
・ゲーム理論の標準的手法を用いて、戦略的状況における諸問題について、数理的に分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点では対面形式を予定している。ただし、最大7回までオンライン形式とする場合があるため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Game Theory
第2回	Static Games of Complete Information (1)	Normal-Form Games and Nash Equilibrium
第3回	Static Games of Complete Information (2)	Cournot Model of Duopoly
第4回	Static Games of Complete Information (3)	Bertrand Model of Duopoly, Final-Offer Arbitration
第5回	Static Games of Complete Information (4)	The Problem of the Commons, Mixed Strategies
第6回	Static Games of Complete Information (5)	Existence of Equilibrium
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Dynamic Games of Complete Information (1)	Backwards Induction, Stackelberg Model of Duopoly
第9回	Dynamic Games of Complete Information (2)	Wages and Employment in a Unionized Firm, Sequential Bargaining
第10回	Dynamic Games of Complete Information (3)	Subgame Perfection, Bank Runs, Tariffs and Imperfect International Competition, Tournaments
第11回	Dynamic Games of Complete Information (4)	Two-Stage Repeated Game
第12回	Dynamic Games of Complete Information (5)	Infinitely Repeated Games
第13回	Dynamic Games of Complete Information (6)	Dynamic Games of Complete but Imperfect Information
第14回	総括	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】
Robert Gibbons, “Game Theory for Applied Economists,” Princeton University Press, 1992

【参考書】
講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、中間試験40％、平常点10％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】
数学（微分、確率など）、ミクロ経済学、ゲーム理論について、学部レベルの知識が必須となる。それらの知識が不十分と感じる場合は、入念に復習しておくこと。

【担当教員の専門分野等】
個人サイトを参照：
https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, students will study game theory, a theoretical framework for analyzing strategic situations. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of game theory in a mathematical context while also addressing applied problems.
Learning objectives:
The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in strategic situations using standard methods of game theory.
Learning activities outside of classroom:
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading criteria/policy:
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term exam (50%), term-end exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN513C1 − 2（経済学 / Economics 500）

ミクロ経済学Ｂ

小林　克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、伝統的な価格理論を講義します。学部の授業で扱うミクロ経済学の基本を理解した学生のみなさんが、計算を用いた中級程度の内容を習得することを目標とします。価格理論の考え方や分析手法は、ミクロ経済学やマクロ経済学の理論分析だけではなく、実証分析や事例研究をする場合も考え方の基礎となります。この講義では、こうした応用問題を考える際に、立ち返ることが出来る価格理論を身につけます。

【到達目標】
教科書で扱われる消費者理論、生産者理論、市場機構の理論を言葉と図、数式を用いて自分で説明を出来るようになることが目標です。さらに比較静学分析で使う簡単な計算が自分で出来るようになることが目標です。受講者には、高校から大学1年で扱う微分 (偏微分、全微分など)の計算と、行列と行列式の簡単な計算、高校で扱うベクトルの知識が求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。10回程度、計算を中心とした問題を宿題として出します。受講者のみなさんを毎回順番に指名してホワイトボードに宿題の解答を書いてもらい、答え合わせと解説をします。その後、宿題の答案を提出してもらい、私が確認をして、必要に応じてコメントを記してお返しします。質問は授業中や授業の前後でするようにして下さい。その場で私が答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	消費者理論1	選好と効用関数
第2回	消費者理論2	宿題の確認。MRS、MRS逓減、準凹関数、行列と行列式の計算。クラメールの公式。効用最大化の2階条件。
第3回	消費者理論3	宿題の確認。縁付きヘッセ行列、古典的なラグランジュ乗数法。
第4回	消費者理論4	ラグランジュ乗数法の2階条件。縁付きヘッセ行列式と準凹関数の関係。
第5回	消費者理論5	宿題の確認。通常の需要と補償需要。比較静学の考え方。
第6回	消費者理論6	宿題の確認。所得効果と代替効果。スルツキー方程式。
第7回	消費者理論7	宿題の確認。スルツキー方程式の別アプローチ。包絡線の定理の考え方。
第8回	消費者理論8	宿題の確認。弾力性。同次関数。オイラーの定理。
第9回	企業の理論1	宿題の確認。利潤最大化。2階条件とヘッセ行列。
第10回	企業の理論2	宿題の確認。比較静学。長期と短期。
第11回	最適化問題	宿題の確認。制約条件付き最適化問題とクーンタッカー条件。
第12回	競争均衡1	宿題の確認。配分、パレート効率。
第13回	競争均衡2	宿題の確認。エッジワースボックス。厚生経済学の第1定理。コア。
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分と偏微分の計算と行列と行列式の計算が出来ない人は、復習をしておく必要があります。これらの計算を授業では多用します。こうした計算の復習で1時間、ほぼ毎回の宿題と授業の復習、テキストの関連部分の精読で3時間の学習を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは次を使います。
西村和雄 (1990)『ミクロ経済学』東洋経済新報社
(品切れですが古本や電子書籍で入手出来ます。ですが無理に購入する必要はありません。)

【参考書】
参考書として以下をあげておきます。
Varian, H. (1992), Microeconomic Analysis 3rd ed., W W Norton &Co Inc.
(新品のハードカバー、ペーパーバックともに入手出来ます)
もう少し自分で上級の勉強をしたい人向けに以下をあげます。
Mas-Colell, A., Whinston, M., and Green, J. (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press.
Jehle, G. and Reny, P. (2011), Advanced Microeconomic Theory (3rd Edition), Pearson.
前者はミクロ経済学のいろいろな分野が書いてあります。前者が難しいという人は後者の方が読みやすいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で宿題として出す練習問題で50%、授業の理解度を確かめるための期末試験で50%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
少し難しいと感じる方がいますので、みなさんの様子に応じて速度を調整して進むようにしています。2単位の授業で上記の内容を丁寧に講義しながらすべて扱うことは難しいので、今年度も履修者のみなさんの様子を見て扱う内容を減らしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は学習支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私のwebsiteをご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/ katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I provide a lecture on the traditional price theory. The purpose of this course is that students who have learned the elementary microeconomics in the undergraduate course learn the intermediate contents with the calculations. The price theory and its analytical methods are the basis of econometric analyses and case studies in addition to theoretical analyses in micro/macro economics.
Learning objective:
The goals of this course are to understand consumer, producer, and market theories. In particular, students should be able to explain these theories verbally, mathematically, and graphically on their own. In addition, students should have the skill of comparative statics.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by homework:50%and term exam:50%.

ECN522C1 － 1（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学 A

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づいた動学的一般均衡モデルを国際標準のテキストを用いて学ぶ。
上記関連学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。

【到達目標】
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカの大学院で使う標準的なテキストである Romer (2018) の2章、6章、および7章に沿って講義します。モデルの分析やソフトの使い方とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業は原則対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション、使うソフト(例えば、Matlab)の紹介
第2回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第3回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（1）
第5回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（2）
第6回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（3）
第7回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-Hill Irwin, 2018

【参考書】
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 1 ：入門編』東洋経済新報社、2017年
G. マンキュー（著）『マクロ経済学 2 ：応用編』東洋経済新報社、2017年

【成績評価の方法と基準】
学生発表50％、課題25%、クラス参加25%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンやタブレットを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://researchmap.jp/7000017527

【Outline (in English)】
The goal is to learn the foundational knowledge on dynamic general equilibrium models based on optimization theory (household utility maximization, firm profit maximization). Additionally, through presentation, students will have a deeper understanding of the academic papers related to the above topics, or apply to their own research to some extent.
All students are expected to read academic papers related to the course contents at home.
Grading criteria:
presentation 50％、homework 25%、attendancy 25%

ECN522C1 − 2（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学Ｂ

高野　哲彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。本授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。
数式を用いた解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標とせず、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。
例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎となる基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】
マクロ経済学の基礎的概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（１）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（２）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（１）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（２）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（３）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBCモデル（１）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBCモデル（２）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（１）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（２）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（３）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。
週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】
蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】
McCandless, George. The ABCs of RBCs: An introduction to dynamic macroeconomic models. Harvard University Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション６０％の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学、労働経済学
＜研究テーマ＞
サーチモデルを用いたマクロ労働市場動学の分析
＜主要研究業績＞
Takano, Tetsuaki. "Worker flows by gender and industry in Japan." Journal of the Japanese and International Economies 71 (2024): 101301.
Takano, Tetsuaki. "Beveridge curve under endogenous separation model: The role of wage rigidity and match-specific productivity." Economic Modelling 141 (2024): 106845.
Hasumi, Ryo, and Tetsuaki Takano. "Comparing the earned income tax credit and universal basic income in a heterogeneous agent model." Structural Change and Economic Dynamics (2025).

【Outline (in English)】
（Course outline）
In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.
（Learning Objectives）
The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1 − 1（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学 A

西村　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では進化ゲーム理論について学ぶ。ゲーム理論の修士レベルの知識を土台とし、Weibull (1997) による英語テキスト（大学院博士および研究者向け）に沿って、定理や命題の証明まで含め、進化ゲーム理論の数理的な分析手法を身に付ける。

【到達目標】
・進化ゲーム理論における重要な用語および概念を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
・定理や命題の証明まで含め、進化ゲーム理論の数理的な分析手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点では対面形式を予定している。ただし、最大7回までオンライン形式とする場合があるため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Evolutionary Game Theory
第2回	Elements of Noncooperative Game Theory (1)	Strategies, Payoffs, Dominance Reactions, Best Replies
第3回	Elements of Noncooperative Game Theory (2)	Nash Equilibrium
第4回	Elements of Noncooperative Game Theory (3)	Refinements, Symmetric Two-Player Games
第5回	Evolutionary Stability Criteria (1)	Evolutionarily Stable Strategies
第6回	Evolutionary Stability Criteria (2)	Characterizations of ESS
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Evolutionary Stability Criteria (3)	Weaker Evolutionary Stability Criteria
第9回	The Replicator Dynamics (1)	Preliminaries
第10回	The Replicator Dynamics (2)	Dominated Strategies
第11回	The Replicator Dynamics (3)	Nash Equilibrium Strategies
第12回	The Replicator Dynamics (4)	Perfect Equilibrium Strategies
第13回	Other Selection Dynamics	Discrete-Time Version of the Replicator Dynamics
第14回	総括	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】
Jörgen W. Weibull, “Evolutionary Game Theory,” The MIT Press, 1997

【参考書】
講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、中間試験40％、平常点10％とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】
大学院修士レベルのゲーム理論の知識が必須となる。そのため、大学院科目の「ミクロ経済学A」を先に受講することが望ましい。また、微分方程式や距離空間など、発展的な数学概念を頻繁に用いるので注意すること。

【担当教員の専門分野等】
個人サイトを参照：
https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, students will study evolutionary game theory. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of evolutionary game theory.
Learning objectives:
The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in evolutionary game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in the evolutionary game theory.
Learning activities outside of classroom:
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading criteria/policy:
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term exam (50%), term-end exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN521C1 − 2（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学Ｂ

小林　克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。この次の時限のミクロ経済学の講義内容を補完する内容を扱います。

【到達目標】
授業の中で取り上げる各分野の基本的な理論モデルの考え方について、理解することが目標です。モデルで使われる経済上の概念についてもお話しします。モデルの中で計算過程も経済上の意味を持ちますので、それも含めて理解するよう努めて下さい。春学期のミクロ経済学Ａで扱ったゲーム理論の考え方や秋学期のミクロ経済学Ｂで扱う価格理論の考え方を用います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。みなさんの様子を見ながら次の時間のミクロ経済学Ｂの内容を補うように進めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	自然独占産業と公的規制(1)	自然独占
第２回	自然独占産業と公的規制(2)	ピークロード料金
第３回	自然独占産業と公的規制(3)	ラムゼイ料金
第４回	公共選択(1)	意思決定のルール
第５回	公共選択(2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第６回	公共選択(3)	間接民主制、投票の棄権
第７回	公共選択(4)	レントシーキング
第８回	公共選択(5)	コンテストモデル
第９回	公共選択(6)	CES生産関数について
第１０回	公共選択(7)	CES生産関数を用いたグループコンテストモデル
第１１回	公共選択(8)	ゲリマンダリング
第１２回	課税	ラムゼイルールの考え方
第１３回	地方分権	住民移動と地方公共財
第１４回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学ＡとＢで扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義をあわせて履修することを強く推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも４時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】
井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣
小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会
Konrad, K. (2009), Strategy And Dynamics In Contests,Oxford University Press.
を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
宿題として出す練習問題を50%、最後に実施する期末試験を50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】
履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は授業支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私のwebsiteをご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/ katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the view of the applied microeconomics. Students should be able to read academic papers in applied microeconomics theory.
Learning objective:
The goals of this course are to understand the thoughts of basic theoretical models and economic concepts used in those models.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by homework:50%and term exam:50%.

ECN563C1 － 2（経済学 / Economics 500）

開発経済論Ｂ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済論Ａでは、開発経済学における主要な実証分析手法である、ランダム化比較試験、操作変数法、固定効果、差の差の分析、Regression Discontinuity Designを学んだ。
開発経済論Ｂでは、開発経済学における、それら以外の実証分析手法を学ぶ。
マッチング推定、Synthetic Control Methods、ノンパラメトリック回帰、セミパラメトリック回帰、制限従属変数モデルなどである。手法の理論を学ぶだけでなく、統計計算ソフトＲを用いて、データを実際に分析する。
なるべく開発経済学のデータを用いるが、適当なデータがない場合は、他の分野の経済学のデータを用いる。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフトＲを用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	最小2乗法	一致性、外生性、内生性、平均トリートメント効果、独立性、条件付き独立性
第2回	マッチング推定	傾向スコア
第3回	Synthetic Control Methods 1	ドイツ統一と経済成長、Abadie (2021)
第4回	Synthetic Control Methods 2	紛争の経済コスト、Abadie and Gardeazabal (2003)
第5回	ノンパラメトリック回帰	局所平均、局所回帰、最適バンド幅
第6回	セミパラメトリック回帰	部分線形モデル、シングル・インデックス・モデル
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第7回までの内容を復習。中間試験。
第8回	最尤法、2値選択	プロビット・モデル、ロジット・モデル
第9回	多項選択	順序付プロビット・モデル、順序付ロジット・モデル、多項ロジット・モデル
第10回	センサリング、セレクション	トービット・モデル、ヘキット・モデル
第11回	分位点回帰	分位点の推定、センサリングと分位点回帰
第12回	ブートストラップ	経験分布関数、サブサンプリング
第13回	Causal Tree	Classification Tree, Regression Tree, Causal Forest
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
- 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮 (2019)『計量経済学』有斐閣
- 末石直也 (2015)『計量経済学: ミクロデータ分析へのいざない』日本評論社
- 末石直也 (2024)『データ駆動型回帰分析 : 計量経済学と機械学習の融合』日本評論社
- Abadie, Alberto (2021) “Using Synthetic Controls: Feasibility, Data Requirements, and Methodological Aspects,” *Journal of Economic Literature*, Vol. 59, No. 2, pp. 391– 425.
- Abadie, Alberto and Javier Gardeazabal (2003) “The Economic Costs of Conflict: A Case Study of the Basque Country,” *American Economic Review*, Vol. 93, No. 1, pp. 113 – 132.
- Hansen, Bruce E. (2022) *Econometrics*, Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】
中間試験40％、期末試験40％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開発経済論Aが開講された2024度秋学期から1年経過しているので、開発経済論Aの履修を前提としない。
計量経済学Aもしくは実証経済学基礎Aを履修した後に本講義を履修することを推奨したい。
計量経済学Bの履修も検討してほしい。
担当教員が本講義を担当するのは、2022年度が初めて、今年度が2度目である。 ただし、最小2乗法、Synthetic Control Methods以外は、今年度が初めての内容である

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” J*ournal of Risk and Insurance*, 88(2): 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, 101(3): 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
In Development Economics A, we studied major empirical methods such as randomized control trial difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.
In Development Economics B, we will study other empirical methods for Development Economics such as nonparametric regression, semiparametric regression, limited dependent variable models, synthetic control methods.

In addition to study the theoretical aspects of the methods, we will apply the methods to data using statistical software R. We will try to look for data from Development Economics. If we cannot find relevant data from Development Economics, we will use data from other fields of Economics.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles.
We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN542C1 − 2（経済学 / Economics 500）

金融ファイナンス論Ｂ

胥　鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	株価データ収集	日々変化する株価データベースの利用方法
2	株価データ加工	株価から収益率を計算する
3	マーケット・モデル	株式相場の個別株価に与える影響について習う
4	イベント・スタディー	マーケットモデルに基づいて株式相場の影響を取り除いた個別銘柄株式の異常収益率(abnormal return)の計測
5	仮説検定1	異常収益率分布の分散に基づくパラメトリック検定
6	仮説検定2	異常収益率の符号に基づくノンパラメトリック検定
7	異常収益率の決定要因	回帰分析
8	短期株価変動と長期株価パフォーマンス	短期的には想定外、すなわち、予想不可能な出来事に株価が反応するが、長期的には株価効果は持続しない。
9	バイ・アンド・ホールド・ポートフォリオ(BAHR)	株式を長期にわたって保有する投資手法
10	カレンダー・タイム・ポートフォリオ(CTR)	毎月基準を満たす投銘柄をリバランスする投資手法
11	ファーマー・フレンチの３ファクターモデルとリファレンス・ポートフォリオ	時価総額・PBRが類似するポートフォリオ
12	コントロール銘柄	リファレンス・ポートフォリオの最も近い銘柄
13	バイ・アンド・ホールド異常収益率	バイ・アンド・ホールド収益率から比較対象の収益利率との比較
14	長期アノマリー	自己株式取得などの長期アノマリーの有無を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN542C1 − 2（経済学 / Economics 500）

金融システム論 B

胥　鵬

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	株価データ収集	日々変化する株価データベースの利用方法
2	株価データ加工	株価から収益率を計算する
3	マーケット・モデル	株式相場の個別株価に与える影響について習う
4	イベント・スタディー	マーケットモデルに基づいて株式相場の影響を取り除いた個別銘柄株式の異常収益率(abnormal return)の計測
5	仮説検定1	異常収益率分布の分散に基づくパラメトリック検定
6	仮説検定2	異常収益率の符号に基づくノンパラメトリック検定
7	異常収益率の決定要因	回帰分析
8	短期株価変動と長期株価パフォーマンス	短期的には想定外、すなわち、予想不可能な出来事に株価が反応するが、長期的には株価効果は持続しない。
9	バイ・アンド・ホールド・ポートフォリオ(BAHR)	株式を長期にわたって保有する投資手法
10	カレンダー・タイム・ポートフォリオ(CTR)	毎月基準を満たす投銘柄をリバランスする投資手法
11	ファーマー・フレンチの３ファクターモデルとリファレンス・ポートフォリオ	時価総額・PBRが類似するポートフォリオ
12	コントロール銘柄	リファレンス・ポートフォリオの最も近い銘柄
13	バイ・アンド・ホールド異常収益率	バイ・アンド・ホールド収益率から比較対象の収益利率との比較
14	長期アノマリー	自己株式取得などの長期アノマリーの有無を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN554C1 － 1（経済学 / Economics 500）

財政学 A

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度（1）	ガイダンス
2	財政規律と予算制度（2）	OECD諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度（3）	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度（4）	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度（5）	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度（6）	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度（7）	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度（8）	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度（9）	OECD主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度（10）	OECD主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度（11）	OECD主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度（12）	OECD主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度（13）	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）
14	財政規律と予算制度（14）	予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社, 2011

【参考書】
① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
②Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
③Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
④Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
⑤Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
⑥井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
⑦井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
⑧山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese public finance, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN554C1 − 2（経済学 / Economics 500）

財政学Ｂ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政と政治（1）	ガイダンス
2	財政と政治（2）	選好と制度
3	財政と政治（3）	選挙競争
4	財政と政治（4）	利益団体
5	財政と政治（5）	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治（6）	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治（7）	動学的政治問題
8	財政と政治（8）	資本課税との関係
9	財政と政治（9）	公的債務との関係
10	財政と政治（10）	成長との関係
11	財政と政治（11）	金融政策の信認
12	財政と政治（12）	選挙サイクル
13	財政と政治（13）	制度とインセンティブ
14	財政と政治（14）	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各2時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】
① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
②Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
③Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
④Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
⑤Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
⑥井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
⑦井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
⑧山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of relationship between public finance and politics, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese fiscal policy at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN566C1 － 1（経済学 / Economics 500）

地域経済論Ⅱ A

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介したうえで、中国経済成長の要因およびメカニズムを様々な側面（経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済成長のメカニズムおよび特徴を明確にする。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及ぶモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に着けることを目的とする。

【到達目標】
地域経済に関しては、中国経済をケースにし、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルに基づき、政府統計データおよび様々な調査データを活用し、実証研究を行い、経済成長のマクロ要因および問題を分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料に基づいて講義形式で行う。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	社会主義市場経済と体制移行	社会主義市場経済の概念、２つの移行パターンを理解する
第3回	体制移行と政府の役割	開発独裁モデルと国家資本主義を理解する
第4回	アクティブディスカッション	民主型と集権型の政治体制と経済成長、中国共産党組織の役割とその影響
第5回	経済発展（１）：二重経済構造モデル	中国における都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点にについて理解する
第6回	経済発展（２）：経済転換点	経済転換点に関する実証研究：日中比較
第7回	経済発展（３）：人口転換理論	中国における人口転換、高齢化と経済成長
第8回	国際貿易と中国経済成長（１）	輸出主導型経済成長モデル、FDIと中国経済成長
第9回	国際貿易と中国経済成長（２）	FDIと中国経済成長に関する実証研究
第10回	経済成長と所得格差（１）	経済成長と所得格差に関する経済理論
第11回	経済成長と所得格差（２）	経済成長と中国所得格差に関する実証研究
第12回	社会保障制度の改革とその効果（１）	中国年金制度の改革とその効果
第13回	社会保障制度の改革とその効果（２）	中国医療保険制度の改革とその効果
第14回	中国経済研究の展望と問題点	マクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書(中上級)あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer. ISBN: 978-981-97-6155-5
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
3.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer. ISBN 978-981-13-6894-6.加藤弘之・梶谷懐　編著（2016）『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点（７０％）
２．学術レポート（３０％）
Regular performance and homework (70%)
2. Final academic report (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と格差問題

【主要研究業績】
1.Ma, X. and Komatsu, S. (2024)Impact of e-commerce development on income gap in rural China: Evidence based on cross-county panel data.Information Technology for Development.1-29.
2.Yu, S., Ma, X., and Zhang, P. (2024) The impact of resident basic medical insurance reform on household consumption of urban residents in China. China &World Economy, 32(1), 96-129.
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80:101479.

5. Ma, X. （2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China.Emerging Markets Finance and Trade, 58(10), 2957– 2975.
6.Ma, X. (2018) Labor market segmentation by industry sectors and wage gaps between migrants and local urban residents in urban China. China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
[Course outline]
The lecture introduces the process of China's economic growth, the pattern of the economy transition from a planned economy to a market-oriented economy, and issues in Chinese economy from a macroeconomic perspective. We will learn the determinants of economic growth and development from different sides (e.g., economic development, institutional transition), and understand the mechanisms and features of Chinese economy growth and development. Based on economic theories and models such as those in neoclassical economics, transition economics, and new institutional economics, as well as government statistical data and survey data, we will learn the empirical study methods. The lecture aims to develop the empirical study skills to take academic research on the area study issues.
[Learning Objectives]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from macro-economic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the issues in Chinese economy from macroeconomic perspective based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning activities outside of classroom]
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Regular performance and homework (100%)

ECN566C1 － 2（経済学 / Economics 500）

地域経済論Ⅱ B

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業イノベーション、産業構造転換、格差問題(例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差)などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及ぶモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に着けることを目的とする。

【到達目標】
地域経済に関しては、中国経済をケースにし、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルに基づき、政府統計データおよび様々な調査データを活用し、実証研究を行い、ミクロレベル（個人、家計、企業など）の諸要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する
第2回	国有企業の改革（1）	中国国有企業改革の経緯とその効果分析
第3回	国有企業の改革（2）	国有と非国有企業の内部統治の差異と企業業績
第4回	農村改革（1）	土地制度、戸籍制度の改革とその効果分析
第5回	農村改革（2）	出稼ぎ就業と所得格差：理論と実証研究
第6回	アクティブラーニング	国有企業と農村改革の経済効果に関するグループディスカッション
第7回	経済発展と教育（1）	人的資本理論と中国教育収益率の計測
第8回	経済発展と教育（2）	中国大学拡張政策とその効果に関する実証研究
第9回	労働市場：雇用・賃金（1）	党員資格の賃金プレミアムの計測
第10回	労働市場：雇用・賃金（2）	技術進歩が雇用・賃金に与える影響に関する実証研究
第11回	社会保障と家計・個人行動（1）	中国社会保障の改革と家計消費に関する実証研究
第12回	社会保障と家計・個人行動（2）	中国社会保障政策の改革と労働供給に関する実証研究
第13回	所得格差とWell-being	絶対所得と相対所得仮説、幸福経済学の実証研究
第14回	中国経済研究の展望と問題点	ミクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、開発経済学など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書(中上級)を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer. ISBN: 978-981-97-6155-5
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
3.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer. ISBN 978-981-13-6894-
6.加藤弘之・梶谷懐　編著（2016）『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点（70％）
２．期末レポート（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final academic report (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と格差問題

【主要研究業績】
1.Ma, X. and Komatsu, S. (2024)Impact of e-commerce development on income gap in rural China: Evidence based on cross-county panel data.Information Technology for Development.1-29.
2.Yu, S., Ma, X., and Zhang, P. (2024) The impact of resident basic medical insurance reform on household consumption of urban residents in China. China &World Economy, 32(1), 96-129.
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80:101479.

5. Ma, X. （2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China.Emerging Markets Finance and Trade, 58(10), 2957– 2975.
6.Ma, X. (2018) Labor market segmentation by industry sectors and wage gaps between migrants and local urban residents in urban China. China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
[Course outline]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning Objectives]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning activities outside of classroom]
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

ECN523C1 － 1（経済学 / Economics 500）

統計学 A

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特性値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、　母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ 2検定、独立性の検定
第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ 2検定、独立性の検定
第13回	相関と回帰(1)	相関関係、回帰分析
第14回	相関と回帰(2)	相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
授業内での章末問題の解答100％。

【学生の意見等からの気づき】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN523C1 − 2（経済学 / Economics 500）

統計学Ｂ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Rを用いたデータサイエンスを学ぶ

【到達目標】
Rを用いて実際にデータ分析ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに従い実際にRを用いて分析する。学生は学習したデータ分析手法を応用した分析を毎週提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ分析の基礎	データの演算、固有値と特異値の分解、基本統計量、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、箱ひげ図、散布図
第2回	主成分分析	固有値、主成分分析の基礎、ケーススタディ
第3回	因子分析	因子分析の基礎、ケーススタディ
第4回	クラスター分析	階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、モデルに基づいたクラスター分析
第5回	線形回帰分析(1)	単回帰分析
第6回	線形回帰分析(2)	重回帰分析
第7回	非線形回帰分析(1)	ロジスティック回帰、多項式回帰
第8回	非線形回帰分析(2)	一般化線形モデル、平滑化回帰と加法モデル
第9回	線形判別分析	判別分析の基礎、ケーススタディ
第10回	非線形判別分析	判別関数による判別分析、距離による判別分析、多数決による判別分析、ベイズ判別法
第11回	時系列分析(1)	自己共分散と自己相関、スペクトル分析、ランダムウオークと単位根
第12回	時系列分析(2)	AR（自己回帰）モデル、MA（移動平均）モデル、ARMA（自己回帰移動平均）モデル
第13回	時系列分析(3)	ARIMA（自己回帰和分移動平均）モデル、SARIMA（季節変動自己回帰和分移動平均）モデル
第14回	生存分析	ノンパラメトリックモデル、セミパラメトリックモデル、パラメトリックモデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金 明哲『Rによるデータサイエンス(第2版):データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版、3,960

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
毎週の課題の提出により評価する

【学生の意見等からの気づき】
学生が提出した分析レポートの講評を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of this course is to help students acquire statistical literacy using R.
(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on reports.

ECN544C1 － 1（経済学 / Economics 500）

企業経済学Ａ

砂田　充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）の基本モデルを学習する。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学の基本的なモデルを自ら構築・解析できる能力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第3回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第4回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第5回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第6回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とベルトラン競争
第7回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第8回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/ベルトラン・パラドクス
第9回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第10回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第11回	製品差別化②	Hotellingモデル/最小差別化定理
第12回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2段階モデルと最適解
第13回	その他のテーマ	より進んだトピック
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また，基本的な数学（1次関数，2次関数，微分，積分，最適化，連立方程式等）について不安がある場合は，各自，事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2時間程度）を行ったうえで授業に臨み，講義後は復習（2時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』(有斐閣, 2001年).
丸山雅祥『経営の経済学[新版]』（有斐閣，2011年）.
Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010.
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley &Sons, 2013.
Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.
Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.
Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（10～90%），平常点（10～90%）。ふたつの要素の合計が100%。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【その他の重要事項】
履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。2025年度に学習支援システムのリプレイスメントが予定されているため，実際の運用は変更になる可能性がある。

【担当教員の専門分野等】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics. The grade will be based on the final exam (10-50%) and the homework and the class contribution (50%-90%).

ECN545C1 － 1（経済学 / Economics 500）

経済と会計Ａ

田中　優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の基礎理論から実践的な事例までを幅広く学ぶ。持続可能な経済活動の重要性を理解し、企業経営におけるESGの意義や課題を探求する。

【到達目標】
投資の意思決定において、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）という3つの非財務要因を考慮するESG投資の概念を理解する。
ESG投資が誕生した歴史的背景を理解する。
ESG投資家と企業経営者がESG要因について建設的に対話することで、持続可能な社会の実現につながることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、ESG投資の理論と実践を統合的に学ぶことを目的とする。各回の授業は講義、企業事例の分析、グループディスカッション、実習を組み合わせて進行する。
学生はESG要因の評価方法やデータ分析手法を学び、実際の企業事例を通じて理解を深める。特に、PCを用いたデータ整理やAIツールを活用したESGスコア解析など、実践的な課題にも取り組む。
最終回ではグループプレゼンを行い、ESG投資の将来について議論し、学習成果を総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション ESG投資の歴史と現在	1)授業の概要、目標、進め方 2)ESG投資の基本概念と歴史/世界的なトレンド 3)気候変動・社会問題・企業の役割/投資家・企業・政府の視点 実習：SDGs目標と関連する企業データ、ESG投資の利点・課題の議論 事例：Unilever、Tesla
2回（3･4）	企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス	1)債権投資、株式投資、インデックス投資 2)企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス/ESG経営と財務指標の関係/企業価値への影響 3)投資家視点からのESG/ESG投資ファンドの動向 4)議決権行使とステークホルダーエンゲージメント 5)柳モデル、Value Balancing Alliance、インパクト加重会計 実習：財務データとESG指標の相関分析、実際のESG投資信託の比較分析 事例：Patagonia、BlackRock
3回（5･6）	ESG評価とデータ分析	1)MSCI、Sustainalytics、FTSE Russellの評価概要 2)ESGスコアの算出方法 3)AI・ビッグデータを活用したESGデータ分析 4)グリーンウォッシング 実習：ESGスコア算出 事例：Moody's、Volkswagen
4回（7･8）	サプライチェーンとESGリスク	1)ESGリスク管理とサプライチェーン 2)BCP戦略/企業のサステナブル調達戦略 3)ESGリスク（物理リスク、規制リスク、評判リスク）測定と開示 4)中小企業のESG戦略 5)ガバナンスと企業の透明性 実習：サプライチェーンのリスク評価と分析、企業の統合報告書分析 事例：Nike、Johnson & Johnson
5回（9･10）	ESGと規制・政策 地域別のESG投資動向 ESGとテクノロジー	1)ESG投資に関する各国の政策 2)EUタクソノミー、TCFD、GRIの基準 3)欧州、米国、アジアのESG投資の違い 4)新興国市場におけるESG規制の課題 実習：国際基準の比較と適用事例の検討、地域別のESG投資の強み・課題の分析 事例：BNP Pariba、Toyota
6回（11･12）	インパクト投資とその未来	1)インパクト投資の成長分野 2)不動産と低炭素社会移行戦略 3)AI、ブロックチェーンによるESG投資の最適化 実習：AIツールを用いたESGスコアの解析、インパクト投資戦略のケーススタディ 企業事例：IBM、Acumen
7回（13･14）	ESG投資の未来 総括とディスカッション	1)次世代のESG指標 2)長期的な社会インパクトの評価 3)各自の学びの振り返り 実習：2050年を想定したESG投資戦略の提案、ESG投資の今後の可能性を議論 企業事例：Ørsted、Apple

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では、授業の理解を深めるために、事前学習と復習が重要である。まず、配布資料を事前に読み、授業内での議論に積極的に参加できるよう準備することが求められる。授業中に得た知識をもとに、自らの意見を発信し、議論を深めることが学びの質を向上させる。授業後には、講義内容を振り返り、主要な論点を整理し、理解を定着させることが重要である。準備学習および復習には、それぞれ標準として2時間の学習時間を確保することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％（議論への参加、発表資料への貢献度、課題への取り組み姿勢）、期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
新規担当科目のためなし。

【その他の重要事項】
ゲスト講師招聘に伴い授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】
This course covers a wide range of topics from the fundamental theories of ESG (Environmental, Social, and Governance) investment to practical case studies. Students will gain an understanding of the importance of sustainable economic activities and explore the significance and challenges of ESG in corporate management.

ECN551C1 － 1（経済学 / Economics 500）

環境経済論 A

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，大学院修士課程レベルの標準的な環境経済学の基本概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
環境経済学

【Outline (in English)】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it.　In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN551C1 － 2（経済学 / Economics 500）

環境経済論Ｂ

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，標準的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクルⅠ- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクルⅡ- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクルⅢ- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策Ⅰ- 循環型社会の法体系 -	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法.３Ｒの優先順位.２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策Ⅱ- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策Ⅲ- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策，中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業Ⅰ- 経済学の暗黒面 -	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Ａを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
期末レポート：100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline (in English)】
The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN564C1 − 1（経済学 / Economics 500）

経済地理学 A

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の輪読
第3回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の輪読
第4回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の輪読
第5回	都市と集積（1）	主要論文の輪読
第6回	都市と集積（2）	主要論文の輪読
第7回	都市と集積（3）	主要論文の輪読
第8回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の輪読
第9回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の輪読
第10回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の輪読
第11回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の輪読
第12回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の輪読
第13回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の輪読
第14回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press
Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Duranton, G. et al.（2015）『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland
松原宏（2006）『経済地理学 − 立地・地域・都市の理論 −』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN555C1 − 1（経済学 / Economics 500）

公共経済学Ａ

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、市場経済と政府の関係について経済学を通して考察します。本講義では、主に、「市場経済の利点とは何か？」、「市場経済の欠点とは何か？」、「この欠点を補うための政府の役割は何か？」をミクロ経済学の手法に基づき、講義します。講義の前半は、市場経済の利点を、後半は、公共財による市場の失敗と政府の政策について講義します。

【到達目標】
1. 市場経済がもたらす利点と欠点を、ミクロ経済学に基づき述べることができる。
2. 市場の失敗は、どのような政策を用いて解消することができるのか、説明することができる。
3. ミクロ経済学の分析手法を習得し、修士論文執筆の礎を築くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
完全競争の理論、市場の失敗と政府の役割を学習する。標準的なミクロ経済学とゲーム理論を用いて分析を行う。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。
講義は講師自作の講義ノートを用いて行う。資料は学習支援システムからダウンロード可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済学とは、市場の失敗と政府の役割
2	消費者理論(1)	消費者の効用最大化問題、スルツキー分解
3	消費者理論(2)	消費者行動と効率的な消費税制
4	交換経済(1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について
5	交換経済(2)	パレート効率配分
6	交換経済(3)	厚生経済学の基本定理、効率性 vs 衡平性
7	外部性(1)	負の外部性と市場取引
8	外部性(2)	正の外部性と市場取引
9	外部性(3)	コースの定理と外部性
10	自然独占(1)	自然独占とは。独占企業の利潤最大化
11	自然独占(2)	独占市場の経済厚生
12	自然独占(3)	自然独占と価格規制
13	練習問題演習	計算問題の解説
14	総括	本講義の総復習、理解度確認のための実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とするが、講義内容をより深く理解するためには、より多くの時間を費やすことが望ましいことは言うまでもない。ミクロ経済学の復習をすること。学部卒業程度のミクロ経済学の知識を前提として本講義を行う。例えば、武隈(1999)、ギボンズ(1995)の第1章と第2章に掲載されている知識があることが望まれる。これらの知識を持ち合わせない場合には、自主学習するか、他の講義で埋め合わせて欲しい。英語文献は、必ず予習し講義に参加すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
講義ノートを補完する上で次の参考書(特に[1])は、役に立つであろう。
[1]麻生良文『公共経済学』有斐閣，1998年.
[2]板谷淳一，佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社，2013年.
[3]ギボンズ・ロバート『経済学のためのゲーム理論入門』創文社，1995年.
[4]須賀晃一編『公共経済学講義ー理論から政策へ』有斐閣，2014年.
[5]武隈慎一『ミクロ経済学増補版』新世社，1999年.
[6]林正義，小川光，別所俊一郎『公共経済学』有斐閣，2010年.
[7]Hindriks J. and Myles G.D., Intermediate Public Economics (2nd ed.), The MIT Press, 2013.

【成績評価の方法と基準】
教場試験（100%）により評価を行う。修士課程における研究活動において必要な基本知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
講義資料と練習問題集は学習支援システムを通して配布する。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】
In this course, the students learn some basic topics regarding public microeconomics such as (i) the optimal design of consumption taxes based on the standard consumer theory, (ii) the efficiency vs equity based on the pure exchange economy, and (iii) the market failure (externalities and natural monoploly). As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN555C1 − 2（経済学 / Economics 500）

公共経済学Ｂ

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、メカニズム・デザイン理論(Mechanism Design Theory)を学習する。メカニズム・デザイン理論とは、(1)分権的な経済制度・システムを構築することによって、どのような経済社会状態を実現することができるのか、(2)ある社会的な目標を実現するためには、どのような制度を設計しなければならないのか、を研究する学問である。メカニズム・デザイン理論は、様々な分野において研究されており、例えば、古典的な純粋交換経済や公共財経済だけではなく、労使の契約問題、オークション理論、臓器移植や研修医のマッチングにおいても盛んに研究が行われている。誤解を恐れずに言うのならば、様々な社会環境において、より良い結果を実現するための、制度やルール設計を考察するのがメカニズム・デザイン理論であると言って良い。本講義では、完備情報下におけるメカニズムデザイン理論の基本事項を取り上げる。

【到達目標】

修士論文作成の礎となるよう、本講義において、メカニズムデザイン理論の基本事項を徹底的に理解すること。ゲーム理論の応用分析でもあるので、ミクロ経済学A等で習得した技術を、研究に活かせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成する講義資料を用いて講義を行う。ときに、受講生に意見を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	メカニズム・デザイン理論とは？
第2回	完備情報ゲーム理論(1)	戦略形ゲーム、ナッシュ均衡、戦略間の支配関係、支配戦略
第3回	完備情報ゲーム理論(2)	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
第4回	完備情報下のメカニズムデザイン(1)	ソロモン王のジレンマと定式化
第5回	完備情報下のメカニズムデザイン(2)	ソロモン王のジレンマとナッシュ遂行、無支配ナッシュ遂行
第6回	完備情報下のメカニズムデザイン(3)	ソロモン王のジレンマと部分ゲーム完全遂行
第7回	完備情報下のメカニズムデザイン(4)	公共財の自発的寄付ゲームとフリーライダー
第8回	完備情報下のメカニズムデザイン(5)	公共財のパレート効率供給とサミュエルソン条件
第9回	完備情報下のメカニズムデザイン(6)	公共財供給と支配戦略遂行(クラーク・メカニズム)
第10回	完備情報下のメカニズムデザイン(7)	公共財供給と支配戦略遂行(グローブズ・メカニズム)
第11回	完備情報下のメカニズムデザイン(8)	公共財供給とナッシュ遂行(ウォーカー・メカニズム)
第12回	完備情報下のメカニズムデザイン(9)	離散量で供給可能な公共財とメカニズムデザイン(バグノリ・リップマン・メカニズム)
第13回	練習問題演習	計算問題を解説する。
第14回	講義総括	本講義の理解度の確認とより進んだ話題の提供

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「ミクロ経済学A」の学習内容を前提として講義を行う。ゲーム理論の基礎知識は、ギボンズ(2020)などで自主学習すること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当講師作成の講義ノート(学習支援システムにて配布)

【参考書】

· Moore, J. (1992) "Implementation, contracts, and renegotiation in environments with complete information," in Advances in Economic Theory: Sixth World Congress, vol. I, edited by J.J. Laffont, Cambridge University Press.
· 坂井豊貴, 藤中裕二, 若山琢磨(2008)『メカニズムデザイン―資源配分制度の設計とインセンティブ』ミネルヴァ書房
· 川越敏司(2021)『基礎から学ぶマーケット・デザイン』有斐閣
· ロバート・ギボンズ(2020)『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫, 須田伸一訳)岩波書店
· アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ(2009)『厚生経済学と社会選択論; 第2版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳)シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教場試験(100％)により評価する。修士課程における研究活動において必要な基本知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

公共経済学Aとの同時履修を推奨しますが、公共経済学Aを未受講であっても、公共経済学Bは受講可能です。

【担当教員の専門分野等】

https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will study mechanism design theory. Mechanism design theory studies (1) what kind of economic and social conditions can be achieved by constructing decentralized economic systems and (2) what kind of institutions must be designed to achieve specific social goals. The theory has been studied in various fields, such as the classical pure exchange economy, public goods economy, labor-management contract, auction theory, organ transplantation, residency matching. In this lecture, students will learn the basic theory of mechanism design.

As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN574C1 − 1（経済学 / Economics 500）

労働経済学 A

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養います．

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付けることを最終的な目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，基本的に対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学とは
第2回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第3回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第4回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第5回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第6回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第7回	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
第8回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第9回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第10回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第11回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第12回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第13回	賃金格差・所得格差，地域間労働移動	所得格差の概観，グループ間賃金格差，ロイ・モデル等
第14回	議論	学生による課題の報告と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 9th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2023年）
川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します．

【学生の意見等からの気づき】
修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
専門領域：労働経済学、社会保障論
研究テーマ：就業と社会保障制度の関係についての実証分析
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course also covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end report (100%).

ECN574C1 − 2（経済学 / Economics 500）

労働経済学Ｂ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学Aで学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響について，データに基づいた検討をおこないます．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童問題」等）また，雇用保険等の労働市場のセーフティーネットに関する議論にも時間を割きます．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できるようになることを最終的な目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，基本的に対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第2回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第3回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第4回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第5回	失業（1）	日本の失業の概観
第6回	失業（2）	失業を説明する理論
第7回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第8回	最低賃金，社会保険料事業主負担の帰着問題	最低賃金の影響に関する実証分析，事業主負担の帰着に関する理論と実証
第9回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第10回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第11回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第12回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第13回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第14回	議論	学生による課題の報告と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）

Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します．

【学生の意見等からの気づき】
修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
"Does a Wife's Employment Affect her Husband's Retirement Decision? Evidence from Japanese Longitudinal Data," (共著) Journal of International Economic Studies 35: 45-52, 2021.
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net such as unemployment insurance is also deeply discussed. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end exam (100%).

ECN561C1 − 1（経済学 / Economics 500）

国際貿易論Ａ

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大学院レベルの基本的な国際貿易モデルとそれらの応用方法を学ぶ。オンデマンドシステムで講義を配信し、時間割に限らず学習できる形をとる。

【到達目標】
国際貿易の基本モデルであるリカードモデル、ヘクシャーオリーンモデル、グラビティモデルを学び、自分の研究テーマに応用できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の解説
第2回	分析手法の復習	微積分とラグランジュ乗数法
第3回	最適化問題の復習	ラグランジュ乗数法の計算例
第4回	双対性	双対性の理解
第5回	競争均衡	一般均衡の概念
第6回	リカードモデル	リカードモデルの基本
第7回	ヘクシャーオリーンモデル	ヘクシャーオリーンモデルの基礎
第8回	ストルパーサミュエルソン効果とリプチンスキー効果	ヘクシャーオリーンモデルの分析
第9回	グラビティモデル	グラビティモデルの基礎
第10回	統計的手法の復習	データを使った分析に必要な手法
第11回	現代のグラビティモデル	Andeson and van Wincoop (2003)
第12回	グラビティモデルの導出	理論的分析
第13回	国境効果とは	グラビティモデルの応用
第14回	グラビティモデルの推定	グラビティモデルとデータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の予習・復習には４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ノートを学習支援システムから配布します。

【参考書】
Advanced International Trade (2nd edition) by Feenstra.

【成績評価の方法と基準】
アサインメント（４０％）、タームペーパー（６０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際貿易
＜研究テーマ＞
貿易費用の研究・貿易政策の研究
＜主要研究業績＞

Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】
In this course, we study the standard models of international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin by the traditional trade theories such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin model. Then our primary focus in on the gravity model. If time permits, we will cover we will cover the model of international finance using gravity model.
Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. You are also encouraged to study 4 hours before/after each class. Your grade will be determined by your homework (40%) and your performance at the final examination or term paper(60%).

ECN561C1 － 2（経済学 / Economics 500）

国際貿易論Ｂ

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際貿易の実証モデルとして重要なグラビティモデルについて学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず受講できる形とする。

【到達目標】
グラビティモデルの分析に必要な、multilateral resistance termの処理、ゼロ貿易の処理、企業異質性の処理が可能になることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	グラビティモデルの復習	Anderson and van Wincoop (2003)
第2回	グラビティモデルと企業	Krugmanモデル
第3回	企業の異質性	Melitz (2003)モデル
第4回	企業の異質性の下での均衡	Melitzモデルの均衡
第5回	企業の異質性と貿易	Melitzモデルの分析
第6回	企業の異質性とグラビティモデル	Chaney(2008)モデル
第7回	企業の異質性とグラビティモデルの推定	Chaneyモデルの推定
第8回	ゼロ貿易とグラビティモデル	セレクション問題
第9回	ゼロ貿易とグラビティモデルの推定	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第10回	ゼロ貿易とグラビティモデルの分析	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第11回	ゼロ貿易とグラビティモデルとポワソン推定	Log of gravity
第12回	リカードモデルとグラビティモデル	Dornbush, Fisher, and Samuelson
第13回	リカードモデルとグラビティモデルの推定	Eaton and Kortumモデル
第14回	リカードモデルとグラビティモデルの分析	Eaton and Kortumモデルの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習時間の標準は４時間とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムから講義ノートを配布します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
アサインメント（４０%）とterm paper(６０%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際貿易
＜研究テーマ＞
貿易費用の研究・貿易政策の研究
＜主要研究業績＞
Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】
In this course, we study the empirical side of the study in international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin with monopolistic competition model and models with producer. We also focus on the estimation issues in gravity model. We discuss how to deal with border effects, zero trade observations, and selection problems. If time permits, we will cover the empirical trade models with political economy.
Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. Students are also strongly encouraged to learn Stata and Matlab. Students are encouraged to study 4 hours before/after each class. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. Your grade will be determined by the homework (40%) and your performance at the final examination or term paper (60%).

ECN573C1 − 1（経済学 / Economics 500）

応用計量経済学Ａ

明城　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージRを利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】
統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージRを用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
(1) 小暮厚之、「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店、2009年
(2) 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」朝倉書店、2011年

(3) 浅野晳、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年

【成績評価の方法と基準】
課題レポートにて評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント（IDおよびパスワード）を確認しておくこと。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.
Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).
Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).
Grading: reports (100%)

ECN573C1 − 1（経済学 / Economics 500）

ミクロ計量分析A

明城　聡

備考（履修条件等）：2020年度以前入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージRを利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】
統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージRを用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
(1) 小暮厚之、「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店、2009年
(2) 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」朝倉書店、2011年

(3) 浅野晳、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年

【成績評価の方法と基準】
課題レポートにて評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント（IDおよびパスワード）を確認しておくこと。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.
Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).
Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).
Grading: reports (100%)

OTR501C1－1（その他 / Others 500）

日本語ＩＡ

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】
（1）初級レベルの日本語のミスをなくす。
（2）中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
（3）賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
（4）事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
（5）自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
（6）日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信と課題の指示・提出には、「学習支援システム」を利用する。
◇ディスカッションの準備のための情報交換は、学習支援システムの授業内掲示板を利用し、同時双方向で行う。
◇ディスカッションは、対面で行う。
※各回の授業の内容と形態は、授業前日までに学習支援システムで告知する。
【授業の進め方】
1．ディスカッション（＝意見交換）
①賛否の分かれそうなテーマ（学期中に3つ扱う予定）について、必要な情報を集める。＝予習＃1
②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。　※学習支援システムの授業内掲示板を利用し、文字に残す。
③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを想定し、進行の計画を立てる。＝予習＃2
④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。
⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り
2．意見文執筆
⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を500字程度の文章にまとめる。＝宿題＃1
⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題＃2
3．意見文投稿
⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの1点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語力確認とカルテ作成 ・ディスカッションのテーマを考える
第2回	テーマ選定 司会担当順決定	テーマ候補の意味・意図の確認 テーマ選定（投票） 司会者の役割を確認
第3回	テーマ①について情報共有	・テーマ①について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第4回	テーマ①-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第5回	テーマ①-3	・ディスカッションの日本語について振り返る。 ・意見文サンプルを読み、構成を知る ・テーマ①について意見文を書く＝宿題
第6回	テーマ①-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第7回	テーマ②-1	・テーマ②について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第8回	テーマ②-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第9回	テーマ②-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文を書く＝宿題
第10回	テーマ②-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第11回	テーマ③-1	・テーマ③について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第12回	テーマ③-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第13回	テーマ③-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第14回	・「ベスト意見文」を選んで投書する ・期末試験 ・授業の振り返り	・これまでに書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。 ・試験は、学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【ディスカッションの前】
①テーマに関連する情報を集め、ほかの人に説明できるように準備する。
②情報交換後に、意見をまとめ、発表できるように準備する。
③司会を担当する回は、具体的な流れを設計し、必要な準備をする。
【ディスカッションの後】
④話し合いの前後で、自分の意見がどう変わったか（変わらなかったか）を言語化する。
⑤意見文を書く。
⑥クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、意見文を完成させる。

※必要な学習時間：各回およそ1時間。ただし、③と⑤については2～4時間。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語４　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは秋学期の日本語ⅡBでテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）＝40％
・課題文（4回）＝40％
・最終課題（新聞への投書）＝20％

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの前に行う情報交換は、「文字に残す」ことが有意義だと確認できたので、コロナ下での実践に引き続き、学習支援システムの授業内掲示板で行うことにします。※この活動はオンラインで行うことも可能ですが、前後に表現の確認などもできるよう、原則として対面で実施します。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布、課題提出、情報交換などに、学習支援システムを利用する。
・ディスカッション前の情報交換では、同時双方向で学習支援システムの掲示板を利用するため、パソコンでの参加が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅡA（口頭発表のための基礎演習）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実地演習）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2025年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい日本語の文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Basic Japanese for academic speaking and writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to express their opinion in discussions
− B. to host a discussion
− C. to write their opinion in an appropriate style of written Japanese
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have prepared for the coming discussion, and after the discussions, to summarize and write their opinion. Required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria
Grading will be decided based on each reports (40%), in-class contribution(40%), and the term-end report(20%)

OTR501C1 – 2（その他 / Others 500）

日本語ＩＢ

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をする。
※春学期の**日本語ⅡA**では、口頭発表の「部分練習」を行った。この**ⅠB**では、まとまりのある一つの発表全体の訓練を行う。

【到達目標】
（1）自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもにスライド）を作成できるようになる。
（2）わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
（3）作成した視覚資料を用いて5～10分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
（4）ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
（5）発表会の司会やタイムキーパーができるようになる。
（6）自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信と課題の指示・提出には、「学習支援システム」を使用する。
◇ブレーンストーミングと、課題に対するフィードバックは、原則として対面で行う。
◇口頭発表は、対面で行う。
※受講生の人数によって、各回の発表の長さや、授業のスケジュールには変更の可能性があります。いずれの場合も、学習支援システムの授業ページで授業前日までにお知らせします。
【授業の進め方】
（1）視覚資料（スライド）の作成と発表の準備
①大枠のテーマについてクラスでブレーンストーミングを行い、トピックを見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
②講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
③講師の助言を参考に、発表ノートを完成させ、発表の練習をする。
（2）口頭発表
④作成したスライドと発表ノートを使って、3～5分程度の口頭発表を行う。
⑤ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。
（3）最終課題
⑥「日本の○○に対する違和感」について自分でテーマを決め、アウトラインを作成する。
⑦講師の助言を参考に、スライドと発表ノートを作成し、発表の練習をする。
⑧発表をして／発表を聞いて、質疑応答をする。
※最終課題のテーマは、**日本語ⅡB**（レポート作成）の最終課題と同じものが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・近況報告	・授業の目的と進め方の説明 ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）
第2回	課題＃1：対比・列挙 ・スライドに使う日本語表現の確認（箇条書きの復習など） ・対照的な事象をわかりやすく述べる	「法政大学と○○大学」ブレーンストーミング→スライドとノート作成
第3回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第4回	発表会＃1「法政大学と○○大学」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第5回	課題＃2：変化・原因	「コロナ禍の前と後」ブレーンストーミング→スライドとノート作成 ※日本語ⅡAでも扱ったテーマだが、より説得力のある構成にすること
第6回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第7回	発表会＃2「コロナ禍の前と後」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第8回	課題＃3：事実・引用・意見 ・事実と伝聞と自分の意見をきちんと分ける ・引用のマナーを守って話す ・他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ・他者の意見に対する賛否を述べる	「日本の若者に言いたいこと」ブレーンストーミング→アウトラインとスライドの準備、ノートの作成
第9回	フィードバック	スライドの修正・仕上げと発表の練習
第10回	発表会＃3「日本の若者に言いたいこと」	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第11回	課題＃4：最終発表「日本の○○に対する違和感」	テーマに沿って話題候補を挙げる⇒クラスでブレスト⇒アウトラインを作成
第12回	アウトラインに対するフィードバック	スライドとノートの作成
第13回	ドラフトに対するフィードバック	スライドとノートの修正・完成、発表の練習
第14回	発表会4「日本の○○に対する違和感」 ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしてくること。各回2～4時間程度必要。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語4　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）

※日本語ⅡB（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】
・各回の課題（提出と内容）＝50％
・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝20％
・最終発表（資料と口頭発表）＝30％

【学生の意見等からの気づき】
・各回の発表テーマを決める過程にブレーンストーミングを取り入れてみました。春学期の日本語ⅠAで学んだことを生かして、発表の日本語とはまた別の「意見表明」の表現を、実践的に練習することができました。
・司会を担当したことで学ぶところが大きかったという声が多かったので、引き続き今年度も発表会の司会進行は学生にやってもらいます。
・最終課題の大枠のテーマを日本語ⅡB(レポート作成）の最終課題と同じ「日本の○○に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減するとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると考えるからです。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システムで行う。タブレットかPCの利用が望ましい。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ⅡA（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎演習）を、必ず受講しておくこと。日本語ⅠBは、基礎の習得はできているという前提で進める。
・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語ⅡB（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
・2025年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Advanced Japanese for academic presentation
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A.to make slides for a clear and compelling presentation
− B.to make a clear and compelling presentation
− C.to ask/answer the questions about the presentation
Learning activities outside of classroom
Before each presentation session, students will be expected to spend two to four hours to prepare slides, presentation notes and practice making presentation.
Grading Criteria
Grading will be decided based on assignment(slides, notes, performances) (50%), in-class contribution(20%) and the final presentation(slides, notes, performance)(30%)

OTR501C1－1（その他 / Others 500）

日本語ⅡA

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。
※この**日本語ⅡA**では、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の**日本語ⅠB**で行う。

【到達目標】
（1）書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
（2）視覚資料（スライド）の作成に必要な日本語表現と、効果的な提示のし方を身につける。
（3）口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
（4）作成した視覚資料を使って、3分程度の口頭発表ができるようになる。
（5）発表の内容について、質疑応答ができるようになる。
（6）口頭発表会の司会ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信、課題の提出とフィードバックには、「学習支援システム」を利用する。
◇口頭発表の回は、原則として対面で行う。
※受講生の人数によって、スケジュールは変更の可能性があります。実際の各回の実施形態は、学習支援システムの授業ページで授業前日までにお知らせします。
【授業の進め方】
①口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表ノートの作成を課す。
②講師のフィードバックを受けて、各回の課題のスライドと発表ノートを修正し、完成させ、口頭発表の練習をする。
③クラスで発表をし／発表を聞き、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語能力の確認とカルテ作成（日本語ⅠAと共通）
第2回	課題① ・情報の取捨と提示の順番 ・視線、声と顔の表情を意識する ・司会の練習	・見やすいスライドを作る。 ・スライドを見て話す練習。
第3回	課題①発表会	設定＝地域住民との交流会で自己紹介
第4回	課題②画像を説明する ・魅力あるタイトルを考える ・効果的な構成を考える	「よくわからない画像」を1枚選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第5回	課題②フィードバック	スライド・ノートの修正と仕上げ 発表の練習
第6回	課題②発表会	・「よくわからない画像」を見せて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第7回	課題③ ・対比を明確に伝える ・複数の項目を列挙する	「コロナ禍の前と後」スライドとノートの作成
第8回	課題③フィードバック	スライドと発表ノートの修正・仕上げ 発表の練習
第9回	課題③発表会	「コロナ禍をめぐるあれこれ」について、発表をする。 ・発表について質疑応答をする。
第10回	課題④数値の意味を伝える	・興味を引くデータ（グラフや表）を1点選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第11回	課題④	メモを用意し、メモを見ながら話す ・スライドとノートの修正・仕上げと練習
第12回	課題④発表会	発表と質疑応答
第13回	私のベスト発表	4回の発表から1つ選び、オンラインで発表する
第14回	授業のまとめと期末試験	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、下の参考書を準備しておくことを強く勧める。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語4　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは、秋学期の日本語ⅡB（レポート）でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・話し合いへの参加貢献　20％
・各回の課題と発表　50％
・期末試験　30％

【学生の意見等からの気づき】
2024年度は対面での授業を希望する学生が多かったため、2回を除き、対面で実施しました。しかしオンラインでのプレゼンテーションの機会はますます増えています。対面授業を原則としつつ、各回の授業形態については、学生と協議しながらよりよい形を選択していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システムを利用する。
・口頭発表は原則として対面で行うが、少なくとも最終の1回はZoomミーティングを利用するので、その際はPCの用意が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅠA（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実践演習）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2025年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）

・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】

Course outline

Basic Japanese for academic presentation

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

− A.to make slides for a simple and clear explanation about a topic

− B.to make a simple and clear explanation about a topic

− C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom

Before each presentation session, students will be expected to spend one to two hours to prepare a slide, presentation notes and practice making presentation.

Grading Criteria

Grading will be decided based on each assignments and performance(50%), in-class contribution(20%), and the term-end examination(30%)

OTR501C1 – 2（その他 / Others 500）

日本語ⅡB

清水　由美

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】
（1）わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
（2）必要な先行研究や資料・データを探し、それらを十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようになる。
（3）自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして3,000字程度）を書く。
（4）ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
（5）自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】
◇資料の配信、予習確認クイズの実施、課題の指示と提出には、「学習支援システム」を利用する。
◇各課の質疑応答と課題のフィードバックは、原則として対面授業で行うが、学生との協議のうえ、オンラインで実施することもありうる。
【授業の進め方】
典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に3,000字程度のレポートを書いて提出する。
（1）テキストの指定範囲と補足資料の読解、解説動画の視聴
（2）予習確認クイズとフィードバック
（3）課題文の作成・提出
（4）提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
※各回の課題文の目的は「形式の習得」であり、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて1本の論文とすればよいからである。
※なお最終レポートのテーマは、日本語ⅠB（口頭発表）の最終発表のテーマ「日本の○○に対する違和感」と同じものにすることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	・オリエンテーション ・最終レポートのテーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・最終レポートのテーマを考える【＝宿題】
第2回	・テキスト1、2課：作文の基本 ・話し言葉と書き言葉の違い	・レポートや論文における書きことばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。
第3回	・テキスト11課：引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なため、ほかの課に先立って11課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第4回	・テキスト3課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第5回	・テキスト4課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第6回	・テキスト5課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第7回	・テキスト6課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第8回	・テキスト7課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第9回	・テキスト8課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第10回	・テキスト9課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第11回	・テキスト10課：列挙 ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第12回	・テキスト12課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第13回	・テキスト13-14課：帰結、結論の提示 ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第14回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各1～2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された個所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
・予習確認クイズ＝20％
・授業への参加貢献＝10％
・各回の課題文＝50％
・最終レポート＝20％
※予習確認クイズは、満点が取れるまで何回受け直してもよい。

【学生の意見等からの気づき】
・2023年度はオンライン・オンデマンドを積極的に活用し、「書く」ことを主目的とした本講では、対面授業よりもむしろ効果があったと感じましたが、24年度の受講生は対面での実施を希望したため、２回を除いてすべて対面で行いました。今年度は、初めの数回を対面で実施したのち、学生と協議しつつ、その都度、学習内容に合わせて授業形態を選択していきます。
・最終課題の大枠のテーマは日本語ⅠB(口頭発表）の最終課題と同じ「日本の○○に対する違和感」とします。これによって、準備の負担を軽減できるとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができると考えるからです。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続できるデバイス（できればタブレットやPC)
※課題の指示・提出のほか、クラスにおいて課題文のフィードバックをする際にも、学習支援システムを利用するため。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ⅠA・ⅡA修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。
・日本語ⅠB（口頭発表と視覚資料作成）の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。（最終課題のテーマは、1BとⅡBで共通である。）
・2025年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009年、研究社）

【Outline (in English)】
Course outline
Advanced Japanese for academic writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to acquire the necessary knowledge about Japanese expressions and sentence structure for writing clear and persuasive reports
− B. to write a clear and compelling report
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. They have to take a quiz to check their understanding. Required study time is at least one hour for each class meeting.
After each class meeting, students will be assigned to write a short essay, which will take one to two hours.
Grading Criteria
Grading will be decided based on quiz(20%), each assignment (50%), in-class contribution(10%), and the term-end paper(20%)

OTR502C1－1（その他 / Others 500）

日本語Ⅲ A

大場　理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】
（1）論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。
①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第2回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第3回	論文表現の分析＜序論－研究対象と背景＞	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第4回	論文表現の分析＜序論－先行研究の提示＞	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第5回	論文表現の分析＜序論－研究目的と研究行動の概略＞	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第6回	論文表現の分析＜本論－研究方法＞	①本論の研究方法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第7回	論文表現の分析＜本論－考察＞	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第8回	ワークショップ用発表練習1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第9回	ワークショップ用発表練習2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	論文表現の分析＜結論＞	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第13回	論文表現の分析＜結論＞	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第14回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（10％）授業内課題（40％）宿題を含む平常点（50％）

【学生の意見等からの気づき】
学生のみなさんから「よい訓練になった」との声があった、準備なしでするスピーチなどを引き続き実施します。また、修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士2年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、Zoom授業受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
・秋学期の日本語Ⅲ Bを受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房、2005
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房、2012

【Outline (in English)】
【Course outline】You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.
【Learning Objectives】To acquire the Japanese language skills necessary for writing a master's thesis
【Learning activities outside of classroom】The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria /Policy】Quizzes (20%) In-class assignments (30%) Class participation and homework (50%)

OTR502C1 – 2（その他 / Others 500）

日本語Ⅲ B

大場　理恵子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】
（1）論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoomによるオンライン授業を行います。
①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第2回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第3回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第4回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第5回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第6回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第7回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第8回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第9回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第10回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第11回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第12回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第13回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第14回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009年、2750円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題を含む平常点（50％）宿題（50％）

【学生の意見等からの気づき】
修論作成につながる内容以外にも、日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズ（就職活動に備えたスピーチ等）に応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部Zoom授業の可能性がありますので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）とWi-Fi環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1年生は受講できません）
・春学期の日本語ⅢＡを受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること
・やむなく欠席する場合には必ず事前に教員に連絡すること

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第2版）』ひつじ書房,2014
「大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向」『言語文化と日本語教育』(51),2016

【Outline (in English)】
【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution and assignment: 50%, homework:50％

修士ワークショップA

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

修士ワークショップB

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN988

修士論文

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN988

リサーチ・ペーパー

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN900-1

ＱＥ（経済史）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：Ph.D.プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN900-2

ＱＥ（計量経済学）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：Ph.D.プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN900-3

ＱＥ（マクロ経済学）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：Ph.D.プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN900-4

ＱＥ（ミクロ経済学）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：Ph.D.プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN900-5

ＱＥ（口述試験）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：Ph.D.プログラム生用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN601C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第2回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第3回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第4回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第5回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第6回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第7回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第8回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第9回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第10回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第11回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第12回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第13回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ＩＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第2回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第3回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第4回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第5回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第6回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第7回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第8回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第9回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第10回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第11回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第12回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第13回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第14回	最終報告	1年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第２回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形態とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
- 家計の異時点間の意思決定と貧困動学
- 東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
- “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
- “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
- “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
- 家計の異時点間の意思決定と貧困動学
- 東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
- “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” Journal of Risk and Insurance, 88(2), pp. 293-324. 2021.
- “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” American Journal of Agricultural Economics, 101(3), pp. 672-691. 2019.
- “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. The Economics of Poverty Traps, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形態とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

JESS DIAMO N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ファイナンス・マクロ経済学・労働経済学
＜研究テーマ＞企業貯蓄・コーポレートガバナンス
＜主要研究業績＞ The Formation of Consumer Inflation Expectations: New Evidence From Japan's Deflation Experience 2020/02/12 Diamond, J., Watanabe, K. and Watanabe, T.International Economic Review 61/1, 241-281
Employment Status Persistence in the Japanese Labor Market 2018 The Japanese Economic Review 69/1, 69-100

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing a master's thesis and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

JESS DIAMO N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞ファイナンス・マクロ経済学・労働経済学
＜研究テーマ＞企業貯蓄・コーポレートガバナンス
＜主要研究業績＞ The Formation of Consumer Inflation Expectations: New Evidence From Japan's Deflation Experience 2020/02/12 Diamond, J., Watanabe, K. and Watanabe, T.International Economic Review 61/1, 241-281
Employment Status Persistence in the Japanese Labor Market 2018 The Japanese Economic Review 69/1, 69-100

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing a master's thesis and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞国際貿易
＜研究テーマ＞世界貿易機関
＜主要研究業績＞How Are the Precedents of Trade Policy Rules Made under the World Trade Organization? Economics and Politics, 35, 806-821, 2023.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞国際貿易
＜研究テーマ＞世界貿易機関
＜主要研究業績＞How Are the Precedents of Trade Policy Rules Made under the World Trade Organization? Economics and Politics, 35, 806-821, 2023.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

田村　晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

田村　晶子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom などのオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
1.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan.
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan.
3.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer.

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡB

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文に関する研究報告を行い、研究指導を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
1.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China. Palgrave Macmillan.
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan.
3.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer.

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習ⅡA

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第１回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第１稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/
【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment,” Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

八木橋　毅司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/
【主要業績】
"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), Nov. 2023, Review of Economics of the Household, 21, 1473-1504.
"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy , 40(10), 2097-2124.
“Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production” (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.
“Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy” (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.
“Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment,” Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.
“Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?” (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-1（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ A

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第2回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第3回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第4回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第5回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第6回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第7回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第14回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1-2（経済学 / Economics 600）

経済学演習Ⅱ B

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第1稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第2回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第3回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第4回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第5回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第6回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第7回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第8回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第9回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第10回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第11回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第12回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第13回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第14回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN522C1 － 1（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学ＤＡ

倪　彬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
動学的一般均衡モデルを学ぶ。それに加え取り上げるトピックに関連した学術論文の理解が深まる。

【到達目標】
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、応用的な動学モデルを解くことができる。学術論文を執筆するための基礎知識を身につける。上記に加え取り上げるトピックに関連した学術論文の理解が深まる。ある程度自分の研究にも応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカの大学院で使う標準的なテキストであるRomer(2018)の2章、6章、および7章に沿って講義します。モデルの分析やソフトの使い方とともに、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。授業は原則対面で行いますが、場合によってオンラインの形も考慮に入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション、使うソフト(例えば、Matlab)の紹介
第2回	名目硬直性	貨幣保有と総需要
第3回	名目硬直性	不完全競争と総供給
第4回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（１）
第5回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（２）
第6回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（３）
第7回	名目硬直性	ベクトル自己回帰モデル（演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, Advanced Macroeconomics, 5th edition, McGraw-HillIrwin,2018

【参考書】
蓮見「動学マクロ経済学へのいざない」、2020年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学１：入門編』東洋経済新報社、2017年
G.マンキュー（著）『マクロ経済学2：応用編』東洋経済新報社、2017年

【成績評価の方法と基準】
学生発表25％、課題25%、クラス参加50%

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンやタブレットを常時持参してください。

【担当教員の専門分野等】
詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください
https://researchmap.jp/7000017527

【Outline (in English)】
The dynamic general equilibrium model based on optimization theory (household utility maximization, firm profit maximization) will be studied. Additionally, through presentation, students will have a deeper understanding of the academic papers related to the above topics, or apply to their own research to some extent.
All students are expected to read academic papers related to the course contents at home.
Grading criteria:
presentation 25％、homework 25%、attendancy 50%

ECN522C1 − 2（経済学 / Economics 500）

応用マクロ経済学ＤＢ

高野　哲彰

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。本授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。
数式を用いた解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標とせず、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。
例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎となる基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】
マクロ経済学の基礎的概念の理解に基づき、動学モデルのシミュレーションによる政策分析を実施し、学術論文が執筆できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（１）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（２）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（１）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（２）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（３）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBCモデル（１）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBCモデル（２）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（１）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（２）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（３）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。
週3時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】
蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】
McCandless, George. The ABCs of RBCs: An introduction to dynamic macroeconomic models. Harvard University Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション６０％の配点で成績評価します。プレゼンテーションは内容の理解、発表の明瞭さ、質問への受け答えなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学、労働経済学
＜研究テーマ＞
サーチモデルを用いたマクロ労働市場動学の分析
＜主要研究業績＞
Takano, Tetsuaki. "Worker flows by gender and industry in Japan." Journal of the Japanese and International Economies 71 (2024): 101301.
Takano, Tetsuaki. "Beveridge curve under endogenous separation model: The role of wage rigidity and match-specific productivity." Economic Modelling 141 (2024): 106845.
Hasumi, Ryo, and Tetsuaki Takano. "Comparing the earned income tax credit and universal basic income in a heterogeneous agent model." Structural Change and Economic Dynamics (2025).

【Outline (in English)】
（Course outline）
In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.
（Learning Objectives）
The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN521C1 － 1（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学ＤＡ

西村　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では進化ゲーム理論について学ぶ。ゲーム理論の修士レベルの知識を土台とし、Weibull (1997) による英語テキスト（大学院博士および研究者向け）に沿って、定理や命題の証明まで含め、進化ゲーム理論の数理的な分析手法を身に付ける。また、進化ゲーム理論のアプローチを用いて、自らが関心を持つ社会経済の現象について考察する。

【到達目標】
・進化ゲーム理論における重要な用語および概念を厳密に理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
・定理や命題の証明まで含め、進化ゲーム理論の数理的な分析手法を身に付ける。
・自らが関心のある社会経済の具体的な現象について、進化ゲーム理論のアプローチを用いて考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点では対面形式を予定している。ただし、最大7回までオンライン形式とする場合があるため、講義内での指示に従うこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Evolutionary Game Theory
第2回	Elements of Noncooperative Game Theory (1)	Strategies, Payoffs, Dominance Reactions, Best Replies
第3回	Elements of Noncooperative Game Theory (2)	Nash Equilibrium
第4回	Elements of Noncooperative Game Theory (3)	Refinements, Symmetric Two-Player Games
第5回	Evolutionary Stability Criteria (1)	Evolutionarily Stable Strategies
第6回	Evolutionary Stability Criteria (2)	Characterizations of ESS
第7回	復習	中間試験、まとめと解説
第8回	Evolutionary Stability Criteria (3)	Weaker Evolutionary Stability Criteria
第9回	The Replicator Dynamics (1)	Preliminaries
第10回	The Replicator Dynamics (2)	Dominated Strategies
第11回	The Replicator Dynamics (3)	Nash Equilibrium Strategies
第12回	The Replicator Dynamics (4)	Perfect Equilibrium Strategies
第13回	Other Selection Dynamics	Discrete-Time Version of the Replicator Dynamics
第14回	総括	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義前にテキストの該当部分を読んでおくことが求められる。

【テキスト（教科書）】
Jörgen W. Weibull, “Evolutionary Game Theory,” The MIT Press, 1997

【参考書】
講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験50％、中間試験40％、平常点10％とする。なお、平常点については講義内での発言、質問、問題解説などを加味する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを用いるため、パソコンなどの機器が必要となる。

【その他の重要事項】
大学院修士レベルのゲーム理論の知識が必須となる。そのため、大学院科目の「ミクロ経済学A」を先に受講することが望ましい。また、微分方程式や距離空間など、発展的な数学概念を頻繁に用いるので注意すること。

【担当教員の専門分野等】
個人サイトを参照：
https://sites.google.com/site/takeshinishimura1/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, students will study evolutionary game theory. The course covers the fundamental concepts and analytical methods of evolutionary game theory.
Learning objectives:
The goals of this course are to develop a mathematical understanding of key terms and concepts in evolutionary game theory and be able to explain them in your own words. Students are also expected to acquire the ability to mathematically analyze various problems in the evolutionary game theory.
Learning activities outside of classroom:
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
Grading criteria/policy:
Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term exam (50%), term-end exam (40%), and in-class contribution (10%).

ECN521C1 − 2（経済学 / Economics 500）

応用ミクロ経済学ＤＢ

小林　克也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。この次の時限のミクロ経済学の講義内容を補完する内容を扱います。

【到達目標】
博士課程のみなさんは、分析をして結果を得て、論文にまとめるということが課程での目標です。このために、授業で説明したモデルに関連する論文を自分で探してそれを読み、そこで扱われているモデルを理解し、それらを自分の分析の中で応用することが求められます。博士課程のみなさんはこうしたスキルを身につけることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。みなさんの様子を見ながら次の時間のミクロ経済学Bの内容を補うように進めたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然独占産業と公的規制(1)	自然独占
第2回	自然独占産業と公的規制(2)	ピークロード料金
第3回	自然独占産業と公的規制(3)	ラムゼイ料金
第4回	公共選択(1)	意思決定のルール
第5回	公共選択(2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第6回	公共選択(3)	間接民主制、投票の棄権
第7回	公共選択(4)	レントシーキング
第8回	公共選択(5)	コンテストモデル
第9回	公共選択(6)	CES生産関数について
第10回	公共選択(7)	CES生産関数を用いたグループコンテストモデル
第11回	公共選択(8)	ゲリマンダリング
第12回	課税	ラムゼイルールの考え方
第13回	地方分権	住民移動と地方公共財
第14回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学AとBで扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義を履修したことがない方は履修することを推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも4時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】
井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣
小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会
Konrad, K. (2009), Strategy And Dynamics In Contests,Oxford University Press.
を部分的に参照します。その他、論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
宿題として出す練習問題を50%、最後に実施する期末試験を50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】
履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を進めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は授業支援システムを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私のwebsiteをご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/ katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the view of the applied microeconomics. Students should be able to read academic papers in applied microeconomics theory.
Learning objective:
The goals of this course are to understand the thoughts of basic theoretical models and economic concepts used in those models.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by homework:50%and term exam:50%.

ECN563C1 － 2（経済学 / Economics 500）

開発経済論ＤＢ

池上　宗信

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済論Ａでは、開発経済学における主要な実証分析手法である、ランダム化比較試験、操作変数法、固定効果、差の差の分析、Regression Discontinuity Designを学んだ。
開発経済論Ｂでは、開発経済学における、それら以外の実証分析手法を学ぶ。
マッチング推定、Synthetic Control Methods、ノンパラメトリック回帰、セミパラメトリック回帰、制限従属変数モデルなどである。
手法の理論を学ぶだけでなく、統計計算ソフトＲを用いて、データを実際に分析する。
なるべく開発経済学のデータを用いるが、適当なデータがない場合は、他の分野の経済学のデータを用いる。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。
各自の研究分野における先行研究を理解し、あらたな実証研究論文のプロポーザルを執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフトＲを用いた問題が含まれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	最小2乗法	一致性、外生性、内生性、平均トリートメント効果、独立性、条件付き独立性
第2回	マッチング推定	傾向スコア
第3回	Synthetic Control Methods 1	ドイツ統一と経済成長、Abadie (2021)
第4回	Synthetic Control Methods 2	紛争の経済コスト、Abadie and Gardeazabal (2003)
第5回	ノンパラメトリック回帰	局所平均、局所回帰、最適バンド幅
第6回	セミパラメトリック回帰	部分線形モデル、シングル・インデックス・モデル
第7回	まとめと復習、中間試験	第1回から第7回までの内容を復習。中間試験。
第8回	最尤法、2値選択	プロビット・モデル、ロジット・モデル
第9回	多項選択	順序付プロビット・モデル、順序付ロジット・モデル、多項ロジット・モデル
第10回	センサリング、セレクション	トービット・モデル、ヘキット・モデル
第11回	分位点回帰	分位点の推定、センサリングと分位点回帰
第12回	ブートストラップ	経験分布関数、サブサンプリング
第13回	Causal Tree	Classification Tree, Regression Tree, Causal Forest
第14回	まとめと復習、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
- 西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮 (2019)『計量経済学』有斐閣
- 末石直也 (2015)『計量経済学: ミクロデータ分析へのいざない』日本評論社
- 末石直也 (2024)『データ駆動型回帰分析：計量経済学と機械学習の融合』日本評論社
- Abadie, Alberto (2021) “Using Synthetic Controls: Feasibility, Data Requirements, and Methodological Aspects,” *Journal of Economic Literature*, Vol. 59, No. 2, pp. 391– 425.
- Abadie, Alberto and Javier Gardeazabal (2003) “The Economic Costs of Conflict: A Case Study of the Basque Country,” *American Economic Review*, Vol. 93, No. 1, pp. 113 – 132.
- Hansen, Bruce E. (2022) *Econometrics*, Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】
中間試験30％、期末試験30％、期末レポート20％、平常点20％で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
開発経済論Aが開講された2024度秋学期から1年経過しているので、開発経済論Aの履修を前提としない。
計量経済学Aもしくは実証経済学基礎Aを履修した後に本講義を履修することを推奨したい。
計量経済学Bの履修も検討してほしい。
担当教員が本講義を担当するのは、2022年度が初めて、今年度が2度目である。 ただし、最小2乗法、Synthetic Control Methods以外は、今年度が初めての内容である

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” J*ournal of Risk and Insurance*, 88(2): 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, 101(3): 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
In Development Economics A, we studied major empirical methods such as randomized control trial difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.

In Development Economics B, we will study other empirical methods for Development Economics such as nonparametric regression, semiparametric regression, limited dependent variable models, synthetic control methods.
In addition to study the theoretical aspects of the methods, we will apply the methods to data using statistical software R. We will try to look for data from Development Economics. If we cannot find relevant data from Development Economics, we will use data from other fields of Economics.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles.
We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
We will try to become able to understand previous studies and write a empirical paper proposal.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 30%; end-term exam 30%; end-term report; participation 20%.

ECN542C1 − 2（経済学 / Economics 500）

金融ファイナンス論ＤＢ

胥　鵬

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

緊急事態宣言を受けて、航空会社、観光旅行会社、飲食関連会社の株価が大きく変動していた。日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、経済研究への応用を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーや長期株価パフォーマンス評価を応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQなどの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	株価データ収集	日々変化する株価データベースの利用方法
2	株価データ加工	株価から収益率を計算する
3	マーケット・モデル	株式相場の個別株価に与える影響について習う
4	イベント・スタディー	マーケットモデルに基づいて株式相場の影響を取り除いた個別銘柄株式の異常収益率(abnormal return)の計測
5	仮説検定1	異常収益率分布の分散に基づくパラメトリック検定
6	仮説検定2	異常収益率の符号に基づくノンパラメトリック検定
7	異常収益率の決定要因	回帰分析
8	短期株価変動と長期株価パフォーマンス	短期的には想定外、すなわち、予想不可能な出来事に株価が反応するが、長期的には株価効果は持続しない。
9	バイ・アンド・ホールド・ポートフォリオ(BAHR)	株式を長期にわたって保有する投資手法
10	カレンダー・タイム・ポートフォリオ(CTR)	毎月基準を満たす投銘柄をリバランスする投資手法
11	ファーマー・フレンチの３ファクターモデルとリファレンス・ポートフォリオ	時価総額・PBRが類似するポートフォリオ
12	コントロール銘柄	リファレンス・ポートフォリオの最も近い銘柄
13	バイ・アンド・ホールド異常収益率	バイ・アンド・ホールド収益率から比較対象の収益利率との比較
14	長期アノマリー	自己株式取得などの長期アノマリーの有無を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間課題レポート(50%)と学期課題レポート(50%)の合格評価はいずれも必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス−サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7章) 白桃書房 2020年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about four hours for each class meeting. Passing midterm assignment (50%) and term report (50%) are both required for grading.

ECN554C1 － 1（経済学 / Economics 500）

財政学ＤＡ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政規律と予算制度（1）	ガイダンス
2	財政規律と予算制度（2）	OECD諸国の財政動向
3	財政規律と予算制度（3）	財政赤字と予算制度①（財政赤字の政治経済学、予算・予算制度・予算マネジメント）
4	財政規律と予算制度（4）	財政赤字と予算制度②（予算制度の分析）
5	財政規律と予算制度（5）	日本の予算制度の問題①（財政悪化と財政再建の過程）
6	財政規律と予算制度（6）	日本の予算制度の問題②（財政ルール、中期財政フレーム）
7	財政規律と予算制度（7）	日本の予算制度の問題③（意思決定システム）
8	財政規律と予算制度（8）	日本の予算制度の問題④（中央省庁等改革と予算編成過程）
9	財政規律と予算制度（9）	OECD主要国の予算制度改革①（アメリカ、イギリス、ニュージーランド）
10	財政規律と予算制度（10）	OECD主要国の予算制度改革②（オーストラリア、カナダ）
11	財政規律と予算制度（11）	OECD主要国の予算制度改革③（フランス、ドイツ、イタリア）
12	財政規律と予算制度（12）	OECD主要国の予算制度改革④（スウェーデン、オランダ）
13	財政規律と予算制度（13）	予算制度の国際比較①（政治的コミットメント、財政ルール）
14	財政規律と予算制度（14）	予算制度の国際比較②（中期財政フレーム、意思決定システム、予算・財政の透明性）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社, 2011

【参考書】
① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
②Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
③Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
④Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
⑤Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
⑥井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
⑦井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
⑧山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and demographic change. This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN554C1 － 2（経済学 / Economics 500）

財政学ＤＢ

小黒　一正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、財政や政治は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、財政規律と予算制度に関する主要論点を、後半は財政と政治に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
財政に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、財政規律と予算制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、財政と政治に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財政と政治（1）	ガイダンス
2	財政と政治（2）	選好と制度
3	財政と政治（3）	選挙競争
4	財政と政治（4）	利益団体
5	財政と政治（5）	選挙ルールと選挙競争
6	財政と政治（6）	制度と説明責任、政治レジーム
7	財政と政治（7）	動学的政治問題
8	財政と政治（8）	資本課税との関係
9	財政と政治（9）	公的債務との関係
10	財政と政治（10）	成長との関係
11	財政と政治（11）	金融政策の信認
12	財政と政治（12）	選挙サイクル
13	財政と政治（13）	制度とインセンティブ
14	財政と政治（14）	国際政治の調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002

【参考書】
① Philippe Aghion and Peter W. Howitt, The Economics of Growth, MIT Press, 2008
②Daron Acemoglu, Introduction To Modern Economic Growth, Princeton University Press, 2009
③Walsh, Monetary Theory and Policy, MIT Press, 2010
④Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
⑤Bernard Salani, The Economics of Taxation, MIT Press, 2011
⑥井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社, 1998
⑦井堀利宏『課税の理論』有斐閣, 2003
⑧山重慎二・加藤久和・小黒一正編『人口動態と政策: 経済学的アプローチへの招待』日本評論社, 2013

【成績評価の方法と基準】
授業内での報告（70％）＋レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
初回授業に必ず出席すること。
なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of relationship between Japanese fiscal system and politics. This will also help you to understand the future direction of Japanese fiscal reform at a much deeper level. The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours. Grading criteria /policy is evaluated by the regular report (70%) and the final report (30%).

ECN566C1 － 1（経済学 / Economics 500）

地域経済論ⅡＤＡ

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介したうえで、中国経済成長の要因およびメカニズムを様々な側面（経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済成長のメカニズムおよび特徴を明確にする。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及ぶモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に着けることを目的とする。

【到達目標】
地域経済に関しては、中国経済をケースにし、自らがマクロ経済学の諸理論やモデルに基づき、多様なデータを活用し、高度な実証研究を行い、中国経済成長のマクロ要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	社会主義市場経済と体制移行	社会主義市場経済の概念、２つの移行パターンを理解する
第3回	体制移行と政府の役割	開発独裁モデルと国家資本主義を理解する
第4回	アクティブディスカッション	民主型と集権型の政治体制と経済成長、中国共産党組織の役割とその影響
第5回	経済発展（１）：二重経済構造モデル	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点にについて理解する
第6回	経済発展（２）：経済転換点	経済転換点に関する実証研究：日中比較
第7回	経済発展（３）：人口転換理論	中国における人口転換、高齢化と経済成長
第8回	国際貿易と中国経済成長（１）	輸出主導型経済成長モデル、FDIと中国経済成長
第9回	国際貿易と中国経済成長（２）	FDIと中国経済成長に関する実証研究
第10回	経済成長と所得格差（１）	経済成長と所得格差に関する経済理論
第11回	経済成長と所得格差（２）	経済成長と中国所得格差に関する実証研究
第12回	社会保障政策とその効果（１）	中国年金制度の改革とその効果
第13回	社会保障政策とその効果（２）	中国医療保険制度の改革とその効果
第14回	中国経済研究の展望と問題点	マクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書(中上級)あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer. ISBN: 978-981-97-6155-5
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
3.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer. ISBN 978-981-13-6894-6. 加藤弘之・梶谷懐　編著（2016）『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点（70％）
２．期末レポート（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final academic report (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済発展、体制移行と格差問題

【主要研究業績】
1.Ma, X. and Komatsu, S. (2024)Impact of e-commerce development on income gap in rural China: Evidence based on cross-county panel data.Information Technology for Development.1-29.
2.Yu, S., Ma, X., and Zhang, P. (2024) The impact of resident basic medical insurance reform on household consumption of urban residents in China. China &World Economy, 32(1), 96-129.
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80:101479.

5. Ma, X. （2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China.Emerging Markets Finance and Trade, 58(10), 2957- 2975.
6.Ma, X. (2018) Labor market segmentation by industry sectors and wage gaps between migrants and local urban residents in urban China. China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
[Course outline]
The lecture introduces the process of China's economic growth, the pattern of the economy transition from a planned economy to a market-oriented economy, and issues in Chinese economy from a macroeconomic perspective. We will learn the determinants of economic growth and development from different sides (e.g., economic development, institutional transition), and understand the mechanisms and features of Chinese economy growth and development. Based on economic theories and models such as those in neoclassical economics, transition economics, and new institutional economics, as well as government statistical data and survey data, we will learn the empirical study methods. The lecture aims to develop the empirical study skills to take academic research on the area study issues.
[Learning Objectives]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from macro-economic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the issues in Chinese economy from macroeconomic perspective based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning activities outside of classroom]
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

ECN566C1 － 2（経済学 / Economics 500）

地域経済論ⅡＤＢ

馬　欣欣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業イノベーション、産業構造転換、格差問題(例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差)などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。新古典派経済理論、体制移行論、新制度経済学などの経済理論及ぶモデル、政府統計データおよび調査データに基づき、実証研究の手法を学習し、自ら実証研究を行い、地域経済の問題を研究できるスキルを身に着けることを目的とする。

【到達目標】
地域経済に関しては、中国経済をケースにし、自らがミクロ経済学の諸理論やモデルに基づき、多様なデータを活用し、高度な実証研究を行い、個人、家計、企業行動の諸要因およびメカニズムを分析できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。
第2回	国有企業の改革（1）	中国国有企業改革の原因とその効果分析
第3回	国有企業の改革（2）	国有と非国有企業のコーポレートガバナンスの差異と企業業績
第4回	農村改革（1）	土地制度、戸籍制度の改革とその効果分析
第5回	農村改革（2）	出稼ぎ就業と所得格差：理論と実証研究
第6回	アクティブラーニング	国有企業と農村改革の経済効果に関するグループディスカッション
第7回	経済発展と教育（1）	人的資本理論と中国教育収益率の計測
第8回	経済発展と教育（2）	中国大学拡張政策とその効果に関する実証研究
第9回	労働市場：雇用・賃金（1）	党員資格の賃金プレミアムの計測
第10回	労働市場：雇用・賃金（2）	技術進歩が雇用・賃金に与える影響に関する実証研究
第11回	社会保障と家計・個人行動（1）	中国社会保障の改革と家計消費に関する実証研究
第12回	社会保障と家計・個人行動（2）	中国社会保障政策の改革と労働供給に関する実証研究
第13回	所得格差とウェルビーイング	絶対所得と相対所得仮説、幸福経済学の実証研究
第14回	中国経済研究の展望と問題点	ミクロレベルの視点から中国経済研究の展望と問題点をまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、開発経済学など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書(中上級)を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】
1.Ma, X. (2024) Labor Market Institutions in China. Springer. ISBN: 978-981-97-6155-5
2.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
3.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
4.Cai, F. and Chen, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Springer. ISBN 978-981-15-3226-9
5.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer. ISBN 978-981-13-6894-6. 加藤弘之・梶谷懐　編著（2016）『二重の罠を超えて進む中国型資本主義』、ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】
１．平常点（70％）
２．期末レポート（30％）
両者の組み合わせ：100％
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final academic report (30%)
Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【担当教員の専門分野等】
中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】
1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済発展、体制移行と経済格差

【主要研究業績】
1.Ma, X. and Komatsu, S. (2024)Impact of e-commerce development on income gap in rural China: Evidence based on cross-county panel data.Information Technology for Development.1-29.
2.Yu, S., Ma, X., and Zhang, P. (2024) The impact of resident basic medical insurance reform on household consumption of urban residents in China. China &World Economy, 32(1), 96-129.
3.Ma, X. (2022) Internet usage and income gaps between the self-employed individuals and employees: Evidence from China. Review of Development Economics, 7,1509-1536.
4.Ma, X. (2022) Parenthood and the gender wage gap in urban China. Journal of Asian Economics, 80:101479.
5. Ma, X. （2022） Social insurances and risky financial market participation: Evidence from China.Emerging Markets

Finance and Trade, 58(10), 2957- 2975.
6.Ma, X. (2018) Labor market segmentation by industry sectors and wage gaps between migrants and local urban residents in urban China. China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
[Course outline]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning Objectives]
The goal is to understand the situations and issues in economic growth and development from microeconomic perspective using the Chinese economy as a case study, and to develop the empirical study skills to analyze the determinants and mechanisms in behaviors of individuals, households and firms from microeconomic perspective based on the theories in economics and the data from government statistical data sources and many kinds of academic surveys.
[Learning activities outside of classroom]
Students who have not taken other courses related to the Area Studies (e.g., development economics, microeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks (middle- or high-level) on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)
Combinations of both: 100%

ECN523C1 － 1（経済学 / Economics 500）

統計学ＤＡ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
データサイエンスおよび統計のリテラシーを身に着けること。

【到達目標】
データサイエンスの基礎を固め、さらにそれを実際に応用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員は教科書の内容に基づいて、それをExcelおよびRで実際に計算する方法を説明する。学生は章末の問題を宿題としてExcelおよびRを用いて解き、それを授業内で発表する。さらに学んだ技法を応用した実証分析を行った小論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、Rの基礎	授業の進め方、Rの基礎
第2回	データの表現	度数分布とそのグラフ、ローレンツ曲線、パレート図、2変量データの表現
第3回	データの特性値	データの中心的位置をとらえる代表値、データの散らばりの程度をとらえる指標、データの標準化
第4回	データの収集	統計的探究プロセス、　母集団と標本、標本抽出の方法、インターネット調査、ビッグデータの偏り、実験研究と調査観察研究
第5回	確率(1)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第6回	確率(2)	確率を定義するための枠組み、確率の定義とモデリング、確率の性質、条件付き確率と乗法定理、独立な事象の確率、ベイズの定理
第7回	不確実な現象のモデリング(1)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第8回	不確実な現象のモデリング(2)	確率変数と確率分布、　確率変数の平均と分散・標準偏差、代表的な確率分布、母集団分布とそのモデリング、　標本分布
第9回	統計的推測（推定）(1)	点推定、区間推定
第10回	統計的推測（推定）(2)	点推定、区間推定
第11回	統計的推測（仮説検定）(1)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第12回	統計的推測（仮説検定）(2)	仮説検定の考え方、母数の検定、χ2検定、独立性の検定
第13回	相関と回帰(1)	相関関係、回帰分析
第14回	相関と回帰(2)	相関関係、回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
大内 俊二『データサイエンス指向の統計学』2021年、学術図書出版社、2200円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
授業内での章末問題の解答50％、小論文50％。

【学生の意見等からの気づき】
学部で統計学を履修していない学生も統計学の基礎を理解できるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of this course is to help students acquire statistical literacy.
(Learning Objectives) The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on answering end-of-chapter questions in class.

ECN523C1 − 2（経済学 / Economics 500）

統計学ＤＢ

菅　幹雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Rを用いたデータサイエンスを学ぶ

【到達目標】
Rを用いて実際にデータ分析ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストに従い実際にRを用いて分析する。学生は学習したデータ分析手法を応用した分析レポートを毎週提出する。さらに学んだ技法を応用して実証分析を行い、小論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	データ分析の基礎	データの演算、固有値と特異値の分解、基本統計量、棒グラフ、円グラフ、ヒストグラム、折れ線グラフ、箱ひげ図、散布図
第2回	主成分分析	主成分分析の基礎、ケーススタディ
第3回	因子分析	因子分析の基礎、ケーススタディ
第4回	クラスター分析	階層的クラスター分析、非階層的クラスター分析、モデルに基づいたクラスター分析
第5回	線形回帰分析(1)	単回帰分析
第6回	線形回帰分析(2)	重回帰分析
第7回	非線形回帰分析(1)	ロジスティック回帰、多項式回帰
第8回	非線形回帰分析(2)	一般化線形モデル、平滑化回帰と加法モデル
第9回	線形判別分析	判別分析の基礎、ケーススタディ
第10回	非線形判別分析	判別関数による判別分析、距離による判別分析、多数決による判別分析、ベイズ判別法
第11回	時系列分析(1)	自己共分散と自己相関、スペクトル分析、ランダムウオークと単位根
第12回	時系列分析(2)	AR、MA、ARMA
第13回	時系列分析(3)	ARIMA、SARIMA
第14回	生存分析	ノンパラメトリックモデル、セミパラメトリックモデル、パラメトリックモデル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金 明哲『Rによるデータサイエンス(第2版):データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版、3,960円。

【参考書】
金城俊哉『R統計解析パーフェクトマスター（R4完全対応）［統計＆機械学習第2版］』、2022年、3190円。

【成績評価の方法と基準】
毎週の分析レポート50％、小論文50％。

【学生の意見等からの気づき】
学生が提出した分析レポートの講評を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞産業連関表、物価指数。経済センサス、人口予測
＜主要研究業績＞『物価指数の測定論』、『アメリカ経済センサス研究』（共著）、『東京都の人口予測』（共著）

【Outline (in English)】
（Course outline）The aim of this course is to help students acquire statistical literacy using R.
（Learning Objectives） The goals of this course are to master statistics and apply them by using data.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policies）Grading will be decided based on reports.

ECN544C1 − 1（経済学 / Economics 500）

企業経済学ＤＡ

砂田　充

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は，、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（Business Economics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別，カルテル，合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また，関連する実証的先行研究についても受講者と議論する予定である。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証的産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと板書を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	オリエンテーション
第2回	完全競争と経済厚生	厚生経済学の基本定理/完全競争均衡の最適性
第3回	独占市場	独占市場均衡と厚生/独占による厚生損失
第4回	寡占市場：数量競争①	推測的変動/製品差別化とクールノー競争
第5回	寡占市場：数量競争②	マーケットシェアの決定/市場構造と利益率/集中度と厚生
第6回	寡占市場：価格競争①	価格競争型寡占モデル/製品差別化とベルトラン競争
第7回	寡占市場：価格競争②	供給制約と価格競争/エッジワースの批判
第8回	寡占市場：価格競争③	生産能力決定と価格競争/ベルトラン・パラドクス
第9回	寡占市場：価格競争④	参入阻止戦略
第10回	製品差別化①	垂直的差別化/水平的差別化/独占的競争
第11回	製品差別化②	Hotellingモデル/最小差別化定理
第12回	製品差別化③	最小差別化定理と最適価格/2段階モデルと最適解
第13回	その他のテーマ	より進んだトピック
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ミクロ経済学の基礎について復習を行うこと。また，基本的な数学（1次関数，2次関数，微分，積分，最適化，連立方程式等）について不安がある場合は，各自，事前に復習を行うこと。事前に配布される講義資料を使い十分な予習（2時間程度）を行ったうえで授業に臨み，講義後は復習（2時間程度）を行うこと。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣，2001年）．
丸山雅祥『経営の経済学[新版]』（有斐閣，2011年）．
Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010.
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley &Sons, 2013.
Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ. Press, 2004.
Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press, 1996.
Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988.

【成績評価の方法と基準】
期末試験（10～90%），平常点（10～90%）。ふたつの要素の合計が100%。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
履修者の理解度を踏まえて内容を変更する場合があります。2025年度に学習支援システムのリプレイスメントが予定されているため，実際の運用は変更になる可能性がある。

【担当教員の専門分野等】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics. The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: monopoly, oligopoly with or without capacity constraint, market structure and market power, vertical and horizontal product differentiation, and so on. Students are expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics. The grade will be based on the final exam (10-50%) and the homework and the class contribution (50%-90%).

ECN545C1 － 1（経済学 / Economics 500）

経済と会計ＤＡ

田中　優希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、ESG（環境・社会・ガバナンス）投資の基礎理論から実践的な事例までを幅広く学ぶ。持続可能な経済活動の重要性を理解し、企業経営におけるESGの意義や課題を探求する。

【到達目標】
投資の意思決定において、環境（E）、社会（S）、ガバナンス（G）という3つの非財務要因を考慮するESG投資の概念を理解する。
ESG投資が誕生した歴史的背景を理解する。
ESG投資家と企業経営者がESG要因について建設的に対話することで、持続可能な社会の実現につながることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、ESG投資の理論と実践を統合的に学ぶことを目的とする。各回の授業は講義、企業事例の分析、グループディスカッション、実習を組み合わせて進行する。
学生はESG要因の評価方法やデータ分析手法を学び、実際の企業事例を通じて理解を深める。特に、PCを用いたデータ整理やAIツールを活用したESGスコア解析など、実践的な課題にも取り組む。
最終回ではグループプレゼンを行い、ESG投資の将来について議論し、学習成果を総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回（1･2）	オリエンテーション ESG投資の歴史と現在	1)授業の概要、目標、進め方 2)ESG投資の基本概念と歴史/世界的なトレンド 3)気候変動・社会問題・企業の役割/投資家・企業・政府の視点 実習：SDGs目標と関連する企業データ、ESG投資の利点・課題の議論 事例：Unilever、Tesla
2回（3･4）	企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス	1)債権投資、株式投資、インデックス投資 2)企業の持続可能戦略と財務パフォーマンス/ESG経営と財務指標の関係/企業価値への影響 3)投資家視点からのESG/ESG投資ファンドの動向 4)議決権行使とステークホルダーエンゲージメント 5)柳モデル、Value Balancing Alliance、インパクト加重会計 実習：財務データとESG指標の相関分析、実際のESG投資信託の比較分析 事例：Patagonia、BlackRock
3回（5･6）	ESG評価とデータ分析	1)MSCI、Sustainalytics、FTSE Russellの評価概要 2)ESGスコアの算出方法 3)AI・ビッグデータを活用したESGデータ分析 4)グリーンウォッシング 実習：ESGスコア算出 事例：Moody's、Volkswagen
4回（7･8）	サプライチェーンとESGリスク	1)ESGリスク管理とサプライチェーン 2)BCP戦略/企業のサステナブル調達戦略 3)ESGリスク（物理リスク、規制リスク、評判リスク）測定と開示 4)中小企業のESG戦略 5)ガバナンスと企業の透明性 実習：サプライチェーンのリスク評価と分析、企業の統合報告書分析 事例：Nike、Johnson & Johnson
5回（9・10）	ESGと規制・政策 地域別のESG投資動向 ESGとテクノロジー	1)ESG投資に関する各国の政策 2)EUタクソノミー、TCFD、GRIの基準 3)欧州、米国、アジアのESG投資の違い 4)新興国市場におけるESG規制の課題 実習：国際基準の比較と適用事例の検討、地域別のESG投資の強み・課題の分析 事例：BNP Pariba、Toyota
6回（11・12）	インパクト投資とその未来	1)インパクト投資の成長分野 2)不動産と低炭素社会移行戦略 3)AI、ブロックチェーンによるESG投資の最適化 実習：AIツールを用いたESGスコアの解析、インパクト投資戦略のケーススタディ 企業事例：IBM、Acumen
7回（13・14）	ESG投資の未来 総括とディスカッション	1)次世代のESG指標 2)長期的な社会インパクトの評価 3)各自の学びの振り返り 実習：2050年を想定したESG投資戦略の提案、ESG投資の今後の可能性を議論 企業事例：Ørsted、Apple

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では、授業の理解を深めるために、事前学習と復習が重要である。まず、配布資料を事前に読み、授業内での議論に積極的に参加できるよう準備することが求められる。授業中に得た知識をもとに、自らの意見を発信し、議論を深めることが学びの質を向上させる。授業後には、講義内容を振り返り、主要な論点を整理し、理解を定着させることが重要である。準備学習および復習には、それぞれ標準として2時間の学習時間を確保することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点　５０％（議論への参加、発表資料への貢献度、課題への取り組み姿勢）、期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
新規担当科目のためなし。

【その他の重要事項】
ゲスト講師招聘に伴い授業計画を一部変更することがある。なお、ゲスト講師招聘の場合も担当教員の責任で授業を行う。ゲスト講師によるグループ討議またはクラス討議を行う場合も、担当教員が取り纏めを行う。

【Outline (in English)】
This course covers a wide range of topics from the fundamental theories of ESG (Environmental, Social, and Governance) investment to practical case studies. Students will gain an understanding of the importance of sustainable economic activities and explore the significance and challenges of ESG in corporate management.

ECN551C1 － 1（経済学 / Economics 500）

環境経済論ＤＡ

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義は，大学院博士課程レベルの先進的な環境経済学の概念，手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
場合によりオンライン授業を行うこともある。環境経済学にとって最重要であり，かつ，環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性，環境の経済評価，持続可能な発展）に絞って講義する。その際，特に，社会システムと環境の関係についての基本的考え方，および，経済学的方法，政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？　本講の立場と進め方。
第2回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第3回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分 析。産業公害モデル。
第4回	外部性②	課税政策。
第5回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第6回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第7回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学，マクロ経済学等，経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環経済（Circular Economy）
＜主要研究業績＞「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第6章所収，2019年3月．
「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」（『経済志林』第72巻4号，2005年），
（共著）『環境と資源の経済学』（勁草書房，2007年）

【Outline (in English)】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution(100%)

ECN551C1 － 2（経済学 / Economics 500）

環境経済論ＤＢ

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】
環境経済学はその体系化への努力が始まって以来，地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て，各方面への深化を遂げている。本講義では，最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ，大学院博士課程レベルの先進的な環境経済学の基礎概念，手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
場合によりオンライン授業を行うこともある。現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル ①- 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類.「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル ②- 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.
第3回	ごみ問題とリサイクル ③- 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策①- 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. ３Ｒの優先順位. ２つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策②- 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税，有害物質への・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策③- 自治体の清掃行政-	３Ｒ＋適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策，中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業- 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
環境経済論Ａを既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
細田衛士：『グッズとバッズの経済学　第2版』東洋経済新報社

【参考書】
時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
平常点100 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環経済（Circular Economy）
＜主要研究業績＞「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第6章所収，2019年3月.
「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」（『経済志林』第72巻4号，2005年），
（共著）『環境と資源の経済学』（勁草書房，2007年）

【Outline (in English)】
Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it.　In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling.　By the end of course,students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be　expected to spent 4 hours to understand the course content.　Final grade will be calculated according to the followingprocess: in-class contribution(100%)

ECN564C1 － 1（経済学 / Economics 500）

経済地理学ＤＡ

近藤　章夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できるようになることと、研究領域のフロンティアを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第2回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の輪読
第3回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の輪読
第4回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の輪読
第5回	都市と集積（1）	主要論文の輪読
第6回	都市と集積（2）	主要論文の輪読
第7回	都市と集積（3）	主要論文の輪読
第8回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の輪読
第9回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の輪読
第10回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の輪読
第11回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の輪読
第12回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の輪読
第13回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の輪読
第14回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press
Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Duranton, G. et al.（2015）『Handbook of Regional and Urban Economics Vol.5』North Holland
松原宏（2006）『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
授業内容のお知らせ、資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】
授業は対面形式を基本とするが、履修者と相談のうえ、オンライン形式で実施することがある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Course outline and objectives:
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.
Learning activities outside of classroom:
Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy:
Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(20%), and in-class contribution(80%).

ECN555C1 － 1（経済学 / Economics 500）

公共経済学ＤＡ

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、市場経済と政府の関係について経済学を通して考察します。本講義では、主に、「市場経済の利点とは何か？」、「市場経済の欠点とは何か？」、「この欠点を補うための政府の役割は何か？」をミクロ経済学の手法に基づき、講義します。講義の前半は、市場経済の利点を、後半は、公共財による市場の失敗と政府の政策について講義します。

【到達目標】
1. 市場経済がもたらす利点と欠点を、ミクロ経済学に基づき述べることができる。
2. 市場の失敗は、どのような政策を用いて解消することができるのか、説明することができる。
3. ミクロ経済学の分析手法を習得し、博士論文執筆の礎を築くこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
完全競争の理論、市場の失敗と政府の役割を学習する。標準的なミクロ経済学とゲーム理論を用いて分析を行う。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するのかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。
講義は講師自作の講義ノートを用いて行う。資料は学習支援システムからダウンロード可能である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	公共経済学とは、市場の失敗と政府の役割
2	消費者理論(1)	消費者の効用最大化問題、スルツキー分解
3	消費者理論(2)	消費者行動と効率的な消費税制
4	交換経済(1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について
5	交換経済(2)	パレート効率配分
6	交換経済(3)	厚生経済学の基本定理、効率性 vs 衡平性
7	外部性(1)	負の外部性と市場取引
8	外部性(2)	正の外部性と市場取引
9	外部性(3)	コースの定理と外部性
10	自然独占(1)	自然独占とは。独占企業の利潤最大化
11	自然独占(2)	独占市場の経済厚生
12	自然独占(3)	自然独占と価格規制
13	練習問題演習	計算問題の解説
14	総括	本講義の総復習、理解度確認のための実習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各2時間を目安とするが、講義内容をより深く理解するためには、より多くの時間を費やすことが望ましいことは言うまでもない。ミクロ経済学の復習をすること。学部卒業程度のミクロ経済学の知識を前提として本講義を行う。例えば、武隈(1999)、ギボンズ(1995)の第1章と第2章に掲載されている知識があることが望まれる。これらの知識を持ち合わせない場合には、自主学習するか、他の講義で埋め合わせて欲しい。英語文献は、必ず予習し講義に参加すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
講義ノートを補完する上で次の参考書(特に[1])は、役に立つであろう。
[1]麻生良文『公共経済学』有斐閣，1998年.
[2]板谷淳一，佐野博之『コアテキスト公共経済学』サイエンス社，2013年.
[3]ギボンズ・ロバート『経済学のためのゲーム理論入門』創文社，1995年.
[4]須賀晃一編『公共経済学講義ー理論から政策へ』有斐閣，2014年.
[5]武隈慎一『ミクロ経済学増補版』新世社，1999年.
[6]林正義，小川光，別所俊一郎『公共経済学』有斐閣，2010年.
[7]Hindriks J. and Myles G.D., Intermediate Public Economics (2nd ed.), The MIT Press, 2013.

【成績評価の方法と基準】
教場試験（100%）により評価を行う。博士課程における研究活動において必要な知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
なし。

【その他の重要事項】
講義資料と練習問題集は学習支援システムを通して配布する。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】
In this course, the students learn some basic topics regarding public microeconomics such as (i) the optimal design of consumption taxes based on the standard consumer theory, (ii) the efficiency vs equity based on the pure exchange economy, and (iii) the market failure (externalities and natural monoploly). As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN555C1 － 2（経済学 / Economics 500）

公共経済学ＤＢ

篠原　隆介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、メカニズム・デザイン理論(Mechanism Design Theory)を学習する。メカニズム・デザイン理論とは、(1)分権的な経済制度・システムを構築することによって、どのような経済社会状態を実現することができるのか、(2)ある社会的な目標を実現するためには、どのような制度を設計しなければならないのか、を研究する学問である。メカニズム・デザイン理論は、様々な分野において研究されており、例えば、古典的な純粋交換経済や公共財経済だけではなく、労使の契約問題、オークション理論、臓器移植や研修医のマッチングにおいても盛んに研究が行われている。誤解を恐れずに言うのならば、様々な社会環境において、より良い結果を実現するための、制度やルール設計を考察するのがメカニズム・デザイン理論であると言って良い。本講義では、完備情報下におけるメカニズムデザイン理論の基本事項を取り上げる。

【到達目標】

博士論文作成の礎となるよう、本講義において、メカニズムデザイン理論の基本事項を徹底的に理解すること。ゲーム理論の応用分析でもあるので、ミクロ経済学A等で習得した技術を、研究に活かせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成する講義資料を用いて講義を行う。ときに、受講生に意見を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	メカニズム・デザイン理論とは？
第2回	完備情報ゲーム理論(1)	戦略形ゲーム、ナッシュ均衡、戦略間の支配関係、支配戦略
第3回	完備情報ゲーム理論(2)	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
第4回	完備情報下のメカニズムデザイン(1)	ソロモン王のジレンマと定式化
第5回	完備情報下のメカニズムデザイン(2)	ソロモン王のジレンマとナッシュ遂行、無支配ナッシュ遂行
第6回	完備情報下のメカニズムデザイン(3)	ソロモン王のジレンマと部分ゲーム完全遂行
第7回	完備情報下のメカニズムデザイン(4)	公共財の自発的寄付ゲームとフリーライダー
第8回	完備情報下のメカニズムデザイン(5)	公共財のパレート効率供給とサミュエルソン条件
第9回	完備情報下のメカニズムデザイン(6)	公共財供給と支配戦略遂行(クラーク・メカニズム)
第10回	完備情報下のメカニズムデザイン(7)	公共財供給と支配戦略遂行(グローブズ・メカニズム)
第11回	完備情報下のメカニズムデザイン(8)	公共財供給とナッシュ遂行(ウォーカー・メカニズム)
第12回	完備情報下のメカニズムデザイン(9)	離散量で供給可能な公共財とメカニズムデザイン(バグノリ・リップマン・メカニズム)
第13回	練習問題演習	計算問題を解説する。
第14回	講義総括	本講義の理解度の確認とより進んだ話題の提供

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「ミクロ経済学A」の学習内容を前提として講義を行う。ゲーム理論の基礎知識は、ギボンズ(2020)などで自主学習すること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当講師作成の講義ノート(学習支援システムにて配布)

【参考書】

· Moore, J. (1992) "Implementation, contracts, and renegotiation in environments with complete information," in Advances in Economic Theory: Sixth World Congress, vol. I, edited by J.J. Laffont, Cambridge University Press.
· 坂井豊貴, 藤中裕二, 若山琢磨(2008)『メカニズムデザイン―資源配分制度の設計とインセンティブ』ミネルヴァ書房
· 川越敏司(2021)『基礎から学ぶマーケット・デザイン』有斐閣
· ロバート・ギボンズ(2020)『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫, 須田伸一訳)岩波書店
· アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ(2009)『厚生経済学と社会選択論; 第2版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳)シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教場試験(100％)により評価する。博士課程における研究活動において必要な知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

公共経済学Aとの同時履修を推奨しますが、公共経済学Aを未受講であっても、公共経済学Bは受講可能です。

【担当教員の専門分野等】

https://researchmap.jp/ryusuke_shinohara を参照のこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will study mechanism design theory. Mechanism design theory studies (1) what kind of economic and social conditions can be achieved by constructing decentralized economic systems and (2) what kind of institutions must be designed to achieve specific social goals. The theory has been studied in various fields, such as the classical pure exchange economy, public goods economy, labor-management contract, auction theory, organ transplantation, residency matching. In this lecture, students will learn the basic theory of mechanism design.

As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN574C1 − 1（経済学 / Economics 500）

労働経済学ＤＡ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養うと同時に，労働経済学における高度な分析をおこなう下地とします．

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象について，何が解っており何が解っていないのかを把握したうえで，この分野の発展に貢献しうる研究をおこなうための実証上の作業仮説を立てられるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，基本的に対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学とは
第2回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第3回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第4回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第5回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第6回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第7回	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
第8回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第9回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第10回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第11回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第12回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第13回	賃金格差・所得格差，地域間労働移動	所得格差の概観，グループ間賃金格差，ロイ・モデル等
第14回	議論	学生による課題の報告と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 9th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2023年）
川口大司『労働経済学理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
学生が関心のあるトピックを把握するように努めたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Through this course, students will understand the basic theories of labor supply, labor demand, and market equilibrium. The final goal of this course is to enable students to conduct advanced empirical analyses in labor economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on termend report (100%).

ECN574C1 － 2（経済学 / Economics 500）

労働経済学ＤＢ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学Aで学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響について，データに基づいた検討をおこないます．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童問題」等）また，雇用保険等の労働市場のセーフティーネットに関する議論にも時間を割きます．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に貢献しうる高度な実証研究をおこなえるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，基本的に対面授業形式でおこないます．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第2回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第3回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第4回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第5回	失業（1）	日本の失業の概観
第6回	失業（2）	失業を説明する理論
第7回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第8回	最低賃金，社会保険料事業主負担の帰着問題	最低賃金の影響に関する実証分析，事業主負担の帰着に関する理論と実証
第9回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第10回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第11回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第12回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第13回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第14回	議論	学生による課題の報告と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020年）
Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
論文等の執筆の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞労働経済学, 社会保障論＜研究テーマ＞就業と社会保険＜主要研究業績＞"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019. "Are Elderly Workers More Likely to Die in Occupational Accidents? Evidence from Both Industry-aggregated Data and Administrative Individual-level Data in Japan"（共著） Japan and The World Economy 48, pp. 79-89, 2018.

【Outline (in English)】
Based on what students have learned in Labor Economics A, more specific topics on the labor market will be discussed. The final goal of this course is to enable students to conduct advanced empirical research that can contribute to discussions of labor issues and public policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on term-end report (100%).

ECN561C1 － 1（経済学 / Economics 500）

国際貿易論ＤＡ

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、大学院レベルの基本的な国際貿易モデルとそれらの応用方法を学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず学習できる形をとる。

【到達目標】
国際貿易の基本モデルであるリカードモデル、ヘクシャーオリーンモデル、グラビティモデルを学び、自分の研究テーマに応用できるようになることを目標とする。自らデータを取得し、数値計算ソフトウェアを使ってグラビティモデルの実証分析を行えるようになる事を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義内容の解説
第2回	分析手法の復習	微積分とラグランジュ乗数法
第3回	最適化問題の復習	ラグランジュ乗数法の計算例
第4回	双対性	双対性の理解
第5回	競争均衡	一般均衡の概念
第6回	リカードモデル	リカードモデルの基本
第7回	ヘクシャーオリーンモデル	ヘクシャーオリーンモデルの基礎
第8回	ストルパーサミュエルソン効果とリプチンスキー効果	ヘクシャーオリーンモデルの分析
第9回	グラビティモデル	グラビティモデルの基礎
第10回	統計的手法の復習	データを使った分析に必要な手法
第11回	現代のグラビティモデル	Andeson and van Wincoop (2003)
第12回	グラビティモデルの導出	理論的分析
第13回	国境効果とは	グラビティモデルの応用
第14回	グラビティモデルの推定	グラビティモデルとデータ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義の予習・復習には４時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義ノートを学習支援システムから配布します。

【参考書】
Advanced International Trade (2nd edition) by Feenstra.

【成績評価の方法と基準】
アサインメント（２０％）、タームペーパー（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際貿易
＜研究テーマ＞
貿易費用の研究・貿易政策の研究
＜主要研究業績＞
Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】
In this course, we study the standard models of international trade.　We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient.　We begin by the traditional trade theories such as the Ricardian and Heckscher-Ohlin model.　Then our primary focus in on the gravity model. If time permits, we will cover we will cover the model of international finance using gravity model.
Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics.　There will be assignments during the course.　You have to submit these homework assignments by the due date.　You are also encouraged to study 4 hours before/after each class.　Your grade will be determined by your homework (20%) and your performance at the final examination or term paper(80%).

ECN561C1 － 2（経済学 / Economics 500）

国際貿易論ＤＢ

武智　一貴

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、国際貿易の実証モデルとして重要なグラビティモデルについて学ぶ。オンデマンドシステムを通じて講義を配信し、時間割に限らず受講できる形とする。

【到達目標】
グラビティモデルの分析に必要な、multilateral resistance termの処理、ゼロ貿易の処理、企業異質性の処理が可能になることを目標とする。自らデータを取得し、数値計算ソフトウェアを使ってグラビティモデルの実証分析を行えるようになる事を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド方式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	グラビティモデルの復習	Anderson and van Wincoop (2003)
第2回	グラビティモデルと企業	Krugmanモデル
第3回	企業の異質性	Melitz (2003)モデル
第4回	企業の異質性の下での均衡	Melitzモデルの均衡
第5回	企業の異質性と貿易	Melitzモデルの分析
第6回	企業の異質性とグラビティモデル	Chaney(2008)モデル
第7回	企業の異質性とグラビティモデルの推定	Chaneyモデルの推定
第8回	ゼロ貿易とグラビティモデル	セレクション問題
第9回	ゼロ貿易とグラビティモデルの推定	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第10回	ゼロ貿易とグラビティモデルの分析	Helpman, Melitz, and Rubinstein
第11回	ゼロ貿易とグラビティモデルとポワソン推定	Log of gravity
第12回	リカードモデルとグラビティモデル	Dornbush, Fisher, and Samuelson
第13回	リカードモデルとグラビティモデルの推定	Eaton and Kortumモデル
第14回	リカードモデルとグラビティモデルの分析	Eaton and Kortumモデルの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習・復習時間の標準は４時間とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムから講義ノートを配布します。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
アサインメント（２０％）と期末試験もしくはterm paper(80%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際貿易
＜研究テーマ＞
貿易費用の研究・貿易政策の研究
＜主要研究業績＞
Quality Sorting, Alchian-Allen Effect, and Distance, Economics Letters 222, 2023.

【Outline (in English)】
In this course, we study the empirical side of the study in international trade. We use the on-demand system to take lectures so that students can learn anytime convenient. We begin with monopolistic competition model and models with producer. We also focus on the estimation issues in gravity model. We discuss how to deal with border effects, zero trade observations, and selection problems. If time permits, we will cover the empirical trade models with political economy.
Students are expected to read the papers I advance and be familiar with introductory econometrics, microeconomics, and international economics. Students are also strongly encouraged to learn Stata and Matlab. Students are encouraged to study 4 hours before/after each class. There will be assignments during the course. You have to submit these homework assignments by the due date. Your grade will be determined by the homework (20%) and your performance at the final examination or term paper (80%).

ECN573C1 − 1（経済学 / Economics 500）

応用計量経済学ＤＡ

明城　聡

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
実証分析を行うために必要な計量経済学の知識と、統計パッケージRを利用した分析手法を学ぶ。

【到達目標】
統計学や計量経済学の考え方を学ぶとともに、統計パッケージRを用いた基本的な計量分析の手法を学習する。特にクロスセクションデータおよびパネルデータに焦点を当てて標準的な分析手法を習得し、より高度な分析に向けたプログラミングスキルを磨く。博士後期課程の学生が受講する場合は、論文執筆に必要なミクロデータの収集および因果推論のスキルを養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学とRの操作方法について解説する。その後で実際に端末を利用して演習を行う。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量分析手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	Rの設定	・Rについて ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	Rの操作とデータ管理(1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	Rの操作とデータ管理(2)	・基本統計量
5	Rの操作とデータ管理(3)	・行列の操作
6	Rの操作とデータ管理(4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(1)	・クロスセクションデータ ・一般化古典的回帰モデル
8	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(2)	・Rでの回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰モデル(3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習(1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰モデル(1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰モデル(2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman検定
13	演習(2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
(1) 小暮厚之、「Rによる統計データ分析入門」朝倉書店、2009年
(2) 福地純一郎、伊藤有希、「Rによる計量経済分析」朝倉書店、2011年

(3) 浅野晳、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009年

【成績評価の方法と基準】
課題レポートにて評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
情報処理室の端末を利用するので、大学のアカウント（IDおよびパスワード）を確認しておくこと。

【その他の重要事項】
受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Outline: Objectives of this course is to master standard econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.
Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).
Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).
Grading: reports (100%)

ECN701C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第3回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第4回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第6回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第7回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第8回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第9回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅢＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第1論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第6回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第9回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第10回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣA（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ⅣＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅳ A

JESS DIAMO N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅳ B

JESS DIAMO N D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅳ A

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第2論文の第1稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第1論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習Ⅳ B

松波　淳也

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第3論文の第1稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第1, 2論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第2回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第3回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第4回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第5回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第6回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第7回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第8回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第9回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第10回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第11回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第12回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第13回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第14回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士2年次の講義科目（専攻分野コースワーク2年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ

酒井　正

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＡ

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第5回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第6回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

経済学演習ＶＢ

宮﨑　憲治

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第7回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第8回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第9回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第10回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第11回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第12回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第13回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第14回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢA

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢAでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢB

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢBでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢA

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢAでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢB

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢBでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢA

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢAでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢB

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢBでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

博士ワークショップA

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

博士ワークショップB

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN999

博士論文

経済学専攻教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN703C1-1（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＡ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも3本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第2回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第3回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第4回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第5回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第6回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1-2（経済学 / Economics 700）

論文指導ＶＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第2回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第3回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第4回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第5回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第6回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第7回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN706C1-1（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢA（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次春学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢAでは、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第5回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第6回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第7回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN706C1-2（経済学 / Economics 700）

博士ワークショップⅢＢ（代表シラバス）

経済学専攻教員

備考（履修条件等）：2017～2020年度入学者用

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程3年次秋学期のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢＢでは、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoomやメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第2回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第3回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第4回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第5回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第6回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第7回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点100％。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100%of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

法政大学
HOSEI University